

第46回秋田県優良工事表彰 第11回秋田県優良業務表彰



令和7年8月
秋 田 県



©2015秋田県んだッチ

表紙: 第46回秋田県優良工事表彰から

餅ヶ沢地区 災害関連緊急治山工事 RD1124A131

第46回秋田県優良工事表彰式 第11回秋田県優良業務表彰式

と き 令和7年8月29日(金)

午後3時30分～4時30分

ところ 秋 田 県 庁 正 庁

次 第

1. 開 式 の こ と ば

2. 式 辞 知 事

3. 来 賓 祝 辞 県 議 会 議 長

4. 表 彰 状 授 与 (工 事) 知 事

5. 表 彰 状 授 与 (業 務) 知 事

6. 受 賞 者 謝 辞 (工 事) 受 賞 者 代 表

7. 受 賞 者 謝 辞 (業 務) 受 賞 者 代 表

8. 閉 式 の こ と ば

目 次

・ お祝いの言葉・・・・・・・・・・・・・・・・	2
・ 第46回秋田県優良工事表彰工事一覧表・・・・・・・・	3
・ 表彰工事の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	5
・ 秋田県優良工事表彰選考委員会及び幹事会名簿・・・・・・・・	35
・ 秋田県優良工事表彰要綱・・・・・・・・・・・・・・・・	36
・ 第11回秋田県優良業務表彰業務一覧表・・・・・・・・	37
・ 表彰業務の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	38
・ 秋田県優良業務表彰選考委員会及び幹事会名簿・・・・・・・・	50
・ 秋田県優良業務表彰要綱・・・・・・・・・・・・・・・・	51



秋田県知事
鈴木 健太

お祝いの言葉

秋田県優良工事表彰及び秋田県優良業務表彰を受賞されました皆様に、心よりお祝い申し上げます。

優良工事表彰制度は、県内建設企業の技術力の向上を目的に始まり、今年で46回目を迎えました。今回受賞された30件は、1,507件もの工事の中から選定されたもので、優れた施工技術と綿密な施工管理にて完成した工事であります。

また、優良業務表彰制度は、測量や調査・設計に携わる企業の技術者の確保・育成を図ることを目的に始まり、今年で11回目となります。1,120件もの業務の中から今回選定された12件は、豊富な知識と優れた技術にて完了した業務であります。

本県は、全国を上回るペースで人口減少と少子化が進んでおります。このような状況下で、社会資本整備の強化は、地域経済と生活を支える上で不可欠であります。また、近年頻発する自然災害に備えるため、県民の安全・安心につながる河川改修等の整備も喫緊の課題となっています。

建設産業は、社会資本整備の担い手としてだけでなく、災害時には県民の命と暮らしを守る重要な役割を担うほか、地域の経済と雇用を支える基幹産業でもあります。農業分野における生産の効率化を図る基盤整備や、豊かな自然環境の保全に向けた森林整備などに取り組む上でも、建設業の力は欠かせません。

今後も、県内建設関連企業の受注機会の確保や、建設DXの加速化を支援するとともに、若い世代や女性などの人材の確保・育成や、建設現場における生産性向上に向けた取組を進めてまいります。

受賞された皆様には、「秋田に住みたい、住み続けたい」と多くの方々に思っただけの地域づくりに向け、引き続き一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げ、お祝いの言葉といたします。

第46回秋田県優良工事表彰 工事一覧表(1/2)

番号	特別表彰	工 事 名 (路河川名)	工事箇所	受注者名	代表者名	発注公所
1		河川災害復旧工事 04-0006-10	鹿角市 十和田 山根	晴澤建設株式会社	石垣 晋一	鹿角 地域振興局
2		浦支内地区 緊急予防治山工事 RB1102A031	北秋田市 小又	奥山建設株式会社	奥山 隆雄	北秋田 地域振興局
3	特別表彰 (15回)	地方道路交付金工事(改築) 05-HF55-40	北秋田市 阿仁 幸屋渡	秋田土建株式会社	北林 照一郎	北秋田 地域振興局
4		防災・減災対策等強化工事 04-KG51-20	大館市 沼館	花岡・大森特定建設工事 共同企業体	鈴木 一敬	北秋田 地域振興局
5		防災・減災対策等強化工事 04-KG51-30	大館市 沼館	佐藤・佐藤吉特定建設工事 共同企業体	佐藤 志津子	北秋田 地域振興局
6	特別表彰 (5回)	梅内沢南線 林業専用道整備工事 RC1209A611	能代市 二ツ井町 荷上場	有限会社伊藤組	大塚 誠	山本 地域振興局
7		浅内南部2期地区 基幹水利施設ストックマネジメント 工事 06402-K01	山本郡 三種町 鵜川	能代電設工業株式会社	山田 雄太	山本 地域振興局
8		河川改修工事 05-KA24-20	山本郡 三種町 下岩川	石井工業株式会社	石井 咲子	山本 地域振興局
9		河川災害復旧工事 04-0325-10	山本郡 三種町 上岩川	成田建設株式会社	成田 圭一郎	山本 地域振興局
10		金足西部地区 農地集積加速化基盤整備工事 08306-K09	秋田市 金足	秋田瀝青建設株式会社	斉藤 豊隆	秋田 地域振興局
11		戸島地区 農地集積加速化基盤整備工事 10204-K12	秋田市 河辺戸島	株式会社最上田組	最上田 晶	秋田 地域振興局
12	特別表彰 (5回)	餅ヶ沢地区 災害関連緊急治山工事 RD1124A131	男鹿市 船川港比詰	株式会社加藤組	加藤 義光	秋田 地域振興局
13	特別表彰 (10回)	防災・減災対策等強化工事 05-KA28-20	秋田市 金足堀内	株式会社菅与組	菅原 孝次郎	秋田 地域振興局
14		地方道路交付金工事(改築) 04-HF30-K1	南秋田郡 五城目町 富津内	株式会社加藤建設	加藤 正己	秋田 地域振興局
15		放流設備改良工事 04-NG21-30	秋田市 仁別 マンタラメ	興栄建設株式会社	齋藤 靖	秋田 地域振興局
16		象潟前川地区 農地中間管理機構関連ほ場整備 工事 02501-K03	にかほ市 象潟町	森建設工業株式会社	森 恵一	由利 地域振興局
17		大規模特定河川工事 05-KG40-10	由利本荘市 徳沢	株式会社鳥海リース	鈴木 一明	由利 地域振興局
18		道路災害復旧工事 05-0117-20	由利本荘市 中俣	渡部機工・伊藤組造園・ 岡精組特定建設工事共 同企業体	藤原 秀則	由利 地域振興局
19		太田南部地区 農地集積加速化基盤整備工事 09904-K20	大仙市 太田町 横沢	はりま建設株式会社	播間 泰	仙北 地域振興局
20	特別表彰 (10回)	西台地区 農地中間管理機構関連ほ場整備 工事 01902-K01	大仙市 協和 下淀川	進藤建設株式会社	進藤 章	仙北 地域振興局

※ 特別表彰受賞回数は企業単独として受賞した回数で、共同企業体として受賞した回数は含まない。

第46回秋田県優良工事表彰 工事一覧表(2/2)

番号	特別表彰 (5回)	工 事 名 (路河川名)	工事箇所	受注者名	代表者名	発注公所
21	特別表彰 (5回)	太田南部地区 農地集積加速化基盤整備工事 09904-K18	大仙市 太田町 横沢	Takamitu株式会社	高橋 祥享	仙北 地域振興局
22		道路メンテナンス工事(橋梁補修) 05-FI56-26	仙北市 西木町 上松木内	株式会社西宮組	西宮 優太	仙北 地域振興局
23		広域河川改修工事 05-KA20-88	大仙市 協和 下淀川	株式会社荒屋舗建設	今野 春夫	仙北 地域振興局
24		蛭野・角間川堰地区 かんがい排水工事 00407-K02	横手市 大雄	伊藤建設工業株式会社	中村 清昭	平鹿 地域振興局
25		地方道路交付金工事(改築) 05-HF96-10	横手市 山内南郷	ミノル工業株式会社	神谷 大基	平鹿 地域振興局
26		道路メンテナンス工事(道路付属物) 05-FI27-80	横手市 雄物川町	株式会社山田塗料店	石川 浩一	平鹿 地域振興局
27		西ノ沢地区 復旧治山工事 RH1101A531	雄勝郡 羽後町 中仙道	株式会社小野建設	小野 人平	雄勝 地域振興局
28	特別表彰 (5回)	地方道路交付金工事(改築) 05-HF25-K1	湯沢市 稲庭町 山ノ下	株式会社皆瀬土木	高橋 光明	雄勝 地域振興局
29		小和瀬発電所 大深ダム改良工事 05-DK-81	仙北市 田沢湖 田沢	佐藤建設株式会社	田村 保	公営企業課 発電所建設室
30		重要港湾改修工事 05-PA10-10	秋田市 土崎港	三和興業株式会社	武田 昭彦	秋田 港湾事務所

※ 特別表彰受賞回数は企業単独として受賞した回数で、共同企業体として受賞した回数は含まない。

1 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	河川災害復旧工事 04-0006-10		
路河川名/地区名	汁毛川	施工地名	鹿角市十和田山根
商号又は名称	晴澤建設株式会社		許可番号 05-012011
請 負 額	28,045,600 円	工 種 ・ 格 付	一般土木 B 級
代 表 者	代表取締役 石垣 晋一		
監理技術者等	主任技術者 畠山 昭一		
監督実施公所	鹿角地域振興局（建設部）		
主任監督員	千葉 寿晃	監 督 員	高橋 寿春
工 期	令和6年2月22日～ 令和6年9月20日	完成年月日	令和6年6月25日
概 要	1) 復旧延長 L=72.8m（左岸 L=72.8m） 2) 護岸工（コンクリートブロック積） A=322m ²		
特 徴	1) 橋のすぐ上流に位置し、大型土のうで応急処置が施されている。 2) 大雨による出水によって既設護岸及び背面が大幅に流出している。		
写 真			
 着工前  完 成			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 本工事は令和4年8月の豪雨により被災した護岸の復旧工事である。
- ・ 既設護岸及び背面が大幅に流失しており、被災前の護岸法線が不明であることから当初各測点を直線で結んで護岸法線とする予定だったが、出来映えを考慮し緩やかな曲線となるよう施工した。護岸のブロックは規格物であり曲線部の処理が難しいが、調整コンクリートを入れることなく全体的に美観の良い仕上がりとなった。
- ・ 資材の搬入や作業スペースの確保、使用するバックホウを全てクレーン仕様とし複数工種に流用するといった工夫により、出水期前に余裕をもって工事を完成させた。

◆施工業者からのPR

- ・ 護岸工において曲線部の調整に注意を払いながら、完成後の出来映えを意識して施工した。
- ・ 河川の出水期に影響のないよう工程を割り振り・調整することで、出水の影響を受けず早期完成につながった。
- ・ 資材の搬入において製造工場との連絡を密にし、施工に支障ない程度に現場での資材ストックを抑えることで余裕を持った作業範囲を確保しつつ、重機及び作業員との接触事故等を回避するよう心掛けた。

2 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	浦支内地区 緊急予防治山工事 RB1102A031		
路河川名/地区名	浦支内地区	施工地名	北秋田市小又
商号又は名称	奥山建設株式会社		許可番号 05-007830
請 負 額	41,897,900 円	工種・格付	一般土木 A級
代 表 者	代表取締役 奥山 隆雄		
監理技術者等	現場代理人 畠山 晃一		
監督実施公所	北秋田地域振興局（農林部）		
主任監督員	富樫 満	監 督 員	村上 雅美
工 期	令和6年8月5日～ 令和7年2月28日	完成年月日	令和7年2月25日
概 要	1) 治山ダム工(コンクリート谷止工) N=1基 V=275.1m3 2) コンクリート土留工 N=1基 V=19.3m3 3) 山腹工 N=1式		
特 徴	1) 降雨により土砂崩壊が発生した急峻な箇所への施工 2) 新工法残存型枠による工程・安全管理の工夫		
写 真			
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 本工事は、急峻、狭隘で作業スペースが少なく、山腹斜面には不安定土砂が堆積し、更に多くの倒木処理を要する現場であった。
- ・ 林道と接する現場条件であったことから、現場作業の安全対策はもちろん林業関係者等の入山者へ注意喚起を促しながら安全確保を行った。
- ・ 新工法残存型枠を採用し労働力不足を補うなど作業の効率化に務め工期限内に完成させた。
- ・ 出来形管理や品質管理が優れているほか、工事関係資料もわかり易く適切に管理されていた。
- ・ 建設技術継承のため現場作業員に対して技術教育を積極的に行っている。

◆施工業者からのPR

- ・ 現場では、崩落した土砂の上に多くの倒木が覆い被さっている状況であったことから、掘削作業を安全かつ効率的に行うため、ロングアームの重機を使用して事前に倒木の処理を行い、その後、掘削作業、法面整形等の本体工事を実施した。
- ・ 残存型枠は、新工法残存型枠を採用した。作業は基本的に型枠内部で行うため、土砂崩落による災害を未然に防ぐことで安全の確保を行った。組立や足場等の設置も容易で工程の短縮に努めた。
- ・ 林道脇での作業であったが、十分な資材置場を確保して資材搬入回数の削減をするなど作業の効率化に努め、豪雪であったものの工期限内に完成することができた。

3 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	地方道路交付金工事(改築) 05-HF55-40		
路河川名/地区名	国道105号	施工地名	北秋田市阿仁幸屋渡
商号又は名称	秋田土建株式会社		許可番号 05-081727
請 負 額	115,460,400 円	工種・格付	一般土木 A級
代 表 者	代表取締役 北林 照一郎		
監理技術者等	現場代理人 小林 勇輝		
監督実施公所	北秋田地域振興局 (建設部)		
主任監督員	菊地 憲裕	監 督 員	柴田 和幸
工 期	令和6年3月28日～ 令和7年1月17日	完成年月日	令和6年8月26日
概 要	1) 施工延長 L=218.6m 2) 盛土工 V=10,710m ³ 3) 排水工(国道横断含む) 一式		
特 徴	1) I C T活用工事(盛土工) 2) 大型機械や二次製品の積極的な採用による工期短縮 3) 現場体験をととした建設業のP R		
写 真			
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ICT技術による精度の高い施工や工期の短縮に加え、ドローンを活用した施工管理資料の作成など、出来形・品質管理の向上はもとより、最新技術を積極的に活用し建設業界のイメージアップに繋がる活動を行っており、評価できる。
- ・施工方法の工夫や建設機械の選定、排水構造物の二次製品を積極的に採用するなどにより、工事期間の大幅な短縮に努めた。
- ・地元小学校の現場見学及び現場体験会などの受入れや、地域住民とのコミュニケーションにより良好な関係を築き苦情がなかったなど、建設業のイメージアップに繋がる活動を行っている。

◆施工業者からのPR

- ・ICT工事として盛土工の一連管理を行い、3次元MG建設機械を使用することで、大幅な工程の短縮を行った。
- ・土質改良工では秋田内陸縦貫鉄道や民家が近接していることを考慮し、粉塵が少ない自走式改良機を採用することで周辺環境への影響を低減した。また、バックホウ機械混合に比べ均一に土質改良ができ品質の向上が図られたほか、作業効率が向上し、大型運搬車を併用することで工期を約50%短縮することが可能となりCO2削減につながった。
- ・地元小学生の見学会の開催や現場体験会を通じて参加した女子や保護者の方にも興味をもってもらうなど、建設業のPRに貢献した。

4 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	防災・減災対策等強化工事 04-KG51-20		
路河川名/地区名	下内川	施工地名	大館市沼館
商号又は名称	花岡・大森特定建設工事共同企業体		
請 負 額	308,396,000 円	工 種 ・ 格 付	一般土木 A 級
代 表 者	花岡土建株式会社 代表取締役 鈴木 一敬		
許可番号	05-002129	監理技術者等	現場代理人 大高 和也
(構 成 員)	株式会社大森土木 代表取締役 大森 弘人		
(許可番号)	05-006532	(監理技術者等)	主任技術者 佐藤 克幸
監督実施公所	北秋田地域振興局（建設部）		
主任監督員	小笠原 哲士	監 督 員	兎澤 成
工 期	令和5年2月3日～ 令和6年7月31日	完成年月日	令和6年6月28日
概 要	1) 施工延長 L=620.2m 2) 掘削工 $\Sigma V=12,330\text{m}^3$ 盛土工 $\Sigma V=4,480\text{m}^3$ 3) コンクリートブロック工（平ブロック張） A=6,522m ²		
特 徴	1) 河道および堤防法線・法勾配が変化する区間の護岸工事 2) 近接工事との工程調整が必要な工事 3) 出水期を含む厳しい現場条件での施工		
写 真			
【完成(下流から)】		【完成(上流から)】	
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 本工事は、令和4年8月の豪雨出水により破堤した下内川(沼館地区)の浸水対策を目的とした工事であり、地域住民から早期の復旧を渴望されていた工区である。
- ・ 安全管理における熱中症対策や社内パトロールにおける工夫は他工事においても参考になると考えている。
- ・ 本事業の受注者で構成する安全協議会会長として、他工区受注者との連携や、地元との調整など、事業推進に係る貢献度は非常に高かったと考えている。

◆施工業者からのPR

- ・ 令和4年8月豪雨で堤防が決壊した沼館地内の下内川上流左岸側工区を担当した。4工区混在の中、綿密な工程調整を行い、地元からの早期完成要望に応え、工期内に工事を完了した。
- ・ 下内川工事安全協議会会長として、施工ヤード・工程調整を主導。地域住民の安全確保のため工事車両運行の安全対策を講じたほか、広報誌を毎月配布し事業進捗を周知し、地域とコミュニケーションを図り理解を深めてもらった。
- ・ 安全管理では夏場の熱中症対策、工事車両事故防止に重点的に取り組むとともに、社内パトロールの実施方法を工夫することでリスクを低減し安全意識の向上に努めた結果、一年半にわたる長期工事を無事故無災害で終えることができた。

5 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	防災・減災対策等強化工事 04-KG51-30		
路河川名/地区名	一級河川 下内川	施工地名	大館市沼館
商号又は名称	佐藤・佐藤吉特定建設工事共同企業体		
請 負 額	269,960,900 円	工 種 ・ 格 付	一般土木 A 級
代 表 者	佐藤建設株式会社 代表取締役 佐藤 志津子		
許可番号	05-000261	監理技術者等	監理技術者 佐藤 良彦
(構 成 員)	佐藤吉株式会社 代表取締役 佐藤 陸斗		
(許可番号)	05-001178	(監理技術者等)	主任技術者 北林 勝彦
監督実施公所	北秋田地域振興局（建設部）		
主任監督員	小笠原 哲士	監 督 員	田澤 はるか
工 期	令和5年2月3日～ 令和6年12月25日	完成年月日	令和6年12月25日
概 要	1) 施工延長L=488.6m 2) 土工N=1式 3) コンクリートブロック (張)A=2,906m ² 4) 排水構造物N=1式 5) 排水樋管N=2基		
特 徴	1) 築堤護岸、排水樋管(2箇所)と施工箇所が点在した工事 2) 現場への搬入路が既存の堤防1路線(W=2.2程度)の為、運搬車両が制限された工事		
写 真			
着工前(R2号樋管)		完成(R2号樋管)	
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 本工事は、令和4年8月豪雨により破堤した下内川の浸水対策を目的とした工事であり、隣接する4工区との工程調整が課題であったが、安全協議会の実施や作業工程の工夫により工期内に工事を完成させた。
- ・ 河川内における出水期中の施工であり、降雨等の気象状況に大きな影響を受ける工事であったが、現場内排水等仮設に関する工夫により水位上昇に対応した適切な仮設計画が評価できる。
- ・ コンクリート打設について、厳密な品質管理を行ったことにより、有害なクラックは発生しておらず、十分な品質が確保されている。

◆施工業者からのPR

- ・ 本工事は隣接した4工区による同時施工で、工程管理において以下の課題があった。
 - ①隣接工区との仮締切が鉢合わせにならないための施工制約
 - ②一般市道及び現場内搬入路の通行制限
 - ③樋管の施工ヤードの確保、仮設計画の変更
 上記の課題について、安全協議会の実施、作業工程及び仮設計画の再考案により適切な工程管理を行い、無事に工事を完成させることができた。
- ・ 樋管の施工について、鉄筋の防錆処理、メッキ結束線の活用、コンクリートの初期凍害対策として仮囲いを2重構造にするなど均一的な熱供給を行い品質確保に努めた。

6 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	梅内沢南線 林業専用道整備工事 RC1209A611		
路河川名/地区名	梅内沢南線	施工地名	能代市二ツ井町荷上場
商号又は名称	有限会社伊藤組		許可番号 05-002626
請 負 額	47,525,500 円	工種・格付	一般土木 A級
代 表 者	代表取締役 大塚 誠		
監理技術者等	現場代理人 佐々木 和也		
監督実施公所	山本地域振興局（農林部）		
主任監督員	中田 彩子	監 督 員	中嶋 邦好
工 期	令和6年6月21日～ 令和7年2月3日	完成年月日	令和6年12月11日
概 要	1) 林業専用道開設 L=800m W=3.6m		
特 徴	1) 狭隘な箇所の林道工事 2) 大型トラックが通行不能な基幹作業道の改築工事 3) 路盤材に鉄鋼スラグ混合RC路盤材の使用		
写 真			
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・本工事は、狭隘かつ急カーブ等のため大型トラックの通行が困難な既設基幹作業道を林業専用道への格上げをするために改築した工事である。このため、既設の切土法面が長い箇所は重機用足場が必要であったが、狭隘な箇所でも旋回可能なカウンターの短いロングアームバックホウを活用したことにより、重機用足場の盛土作業の省略を図った。
- ・砂利路盤工に県内初となる鉄鋼スラグ混合RC-40を使用したことにより、良好な締め固めが可能となり路盤工1層目施工後は、路床への雨水の浸透による脆弱化の影響を軽減させた。
- ・ロングアームバックホウの活用と、鉄鋼スラグ混合RC-40を使用したことによる施工性の向上と綿密な施工計画の管理より50日以上工期短縮に繋がった。

◆施工業者からのPR

- ・降雪前の完成を目標として作業工程を計画し、路盤材のストックヤード1箇所を施工地の近隣に確保、ロングアームバックホウの活用と併せて掘削の作業効率を高め、4週8休を確保しながらも、余裕をもって工事を完成することができた。
- ・法面の土工作业において安全性・効率性を考慮し、ロングアームバックホウ0.4m³を配置することで、重機用足場の造成作業を省いたほか、過掘を抑え作業を進めた。
- ・下層路盤には、通常RC-40を使用するが、管内での供給不能状況やバージン材使用に関する情報収集を早めに行った上で含水比の影響を受けにくい、鉄鋼スラグ混合RC路盤材を採用し、良好な締め固め施工をすることができた。

7 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	浅内南部 2 期地区 基幹水利施設ストックマネジメント工事 06402-K01		
路河川名/地区名	浅内南部 2 期地区	施工地名	山本郡三種町鵜川
商号又は名称	能代電設工業株式会社	許可番号	00-029529
請 負 額	144,450,900 円	工 種 ・ 格 付	機械器具 A 級
代 表 者	代表取締役 山田 雄太		
監理技術者等	現場代理人 松橋 晃貴		
監督実施公所	山本地域振興局（農林部）		
主任監督員	加藤 晃	監 督 員	池田 剛志
工 期	令和5年7月7日～ 令和7年2月28日	完成年月日	令和7年2月28日
概 要	1) 揚水機製作据付工（横軸両吸込渦巻ポンプφ250） N=2台 2) 電気設備（高圧受電盤、変圧器盤、ポンプ盤×2面、補助盤） N=5面		
特 徴	1) 老朽化したポンプ設備の改修工事 2) 農業用水の取水時期による制約及び関連工事との工程管理		
写 真			
【施工前】		【完成後】	
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 本工事は農業用水を取水する揚水機の製作据付工事である。
- ・ 据付は、9月から3月の非かんがい期間内に行う工事であり、関連する建築工事との綿密な工程管理を行い工期に遅れを生じることなく工事を完了させた。
- ・ かんがい期間中に発生した経年劣化に伴う突発的な破損により既設配管から漏水したが、本工事で使用する配管材を急遽搬入し、応急工事を実施したことにより営農に支障を来すことなく用水確保ができた。
- ・ 施設利用者の操作管理の向上のため、バルブ開閉札の取付、機器名称の表示、操作説明書の設置等を行ったことは評価される。

◆施工業者からのPR

- ・ 本工事は揚水機の改修工事で、建屋修繕工事と現場を共有する施工条件にあったが、現場調整や工程管理による連携を図ったことにより、無事故で工事を完了することができた。
- ・ 施設管理者から寄せられた操作や維持管理に関する要望等は可能な限り対応できたと評価している。
- ・ 令和6年4月の突発的な送水管漏水は応急工事の緊急施工となったが、水稻作付に支障なく対応できたことに安堵したとともに施設管理者からの感謝が励みになった。

8 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	河川改修工事 05-KA24-20		
路河川名/地区名	三種川	施工地名	山本郡三種町下岩川
商号又は名称	石井工業株式会社	許可番号	05-082221
請 負 額	137,560,500 円	工 種 ・ 格 付	一般土木 A 級
代 表 者	代表取締役 石井 咲子		
監理技術者等	現場代理人 市川 和弘		
監督実施公所	山本地域振興局（建設部）		
主任監督員	神田 誠	監 督 員	伊藤 浩大
工 期	令和6年3月29日～ 令和7年3月24日	完成年月日	令和7年3月24日
概 要	1) 施工延長 L=355.5m、路体盛土工 V=2,620m ³ 2) 掘削工 V=1,700m ³ 、掘削工 (ICT) V=560m ³ 3) 法覆護岸工 (平ブロック張) A=2,077m ² 、(ブロックマット) A=1,039m ²		
特 徴	1) ICT活用モデル工事 (ICT土工) 2) 厳しい気象条件の中での作業 (R6. 7月豪雨災害)		
写 真			
完成（全景）  完成（終点）  ICT（土工） 			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 本工事は、三種川において、暫定計画（1／5）で河道拡幅を行った区間が令和5年7月豪雨により浸食されたことから、整備計画（1／10）で築堤及び護岸を施工する工事である。
- ・ 令和6年7月豪雨に見舞われたことから、河川の増水による作業の中止及び仮締切への浸水による現場復旧対応等の必要が生じたが、非常に厳しい自然状況の中、ICT施工を積極的に活用する等、作業の効率化に努め、工期限内に工事を完了させた。
- ・ 本事業の受注者で構成する災害防止協議会を設立し、他工区受注者との連携、地元との調整等、事業推進に係る貢献度は非常に高かったと考えている。

◆施工業者からのPR

- ・ 本工事では、少人数の作業体制ながら、ICT施工を積極的に活用し、測定の簡略化、出来形管理の簡素化を図り、工期限内に完成することができた。また、仮締切期間も短縮することができたため、増水被害による工程遅延の影響を最小限にできたことも工期限内完成に繋がった。
- ・ 作業員の高齢化や、夏場の猛暑等健康管理に配慮し、現場事務所へのAED設置や近隣自社現場合同による消防職員を招いての心肺蘇生訓練を実施した。
- ・ 現場下流に取水ポンプが設置されており、取水期間中の取水ポンプ周りの保全協力を行うなど地域住民とのコミュニケーションを円滑に行い工事への理解と協力を得られた。

9 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	河川災害復旧工事 04-0325-10		
路河川名/地区名	三種川 左右岸	施工地名	山本郡三種町上岩川
商号又は名称	成田建設株式会社		許可番号 05-081298
請 負 額	170,432,900 円	工種・格付	一般土木 A級
代 表 者	代表取締役 成田 圭一郎		
監理技術者等	現場代理人 長岡 剛也		
監督実施公所	山本地域振興局（建設部）		
主任監督員	佐藤 政博	監 督 員	佐々木 英樹
工 期	令和6年6月6日～ 令和7年3月21日	完成年月日	令和7年3月17日
概 要	1) 復旧延長L=281.2m 左岸L=243.5m 右岸L=212.5m 2) 護岸工（コンクリートブロック積）A=1,386m ² 3) 帯工N=5基 護床工（標準平型ブロック2.0t）N=163個		
特 徴	1) 3D設計データ、電子黒板、管理ソフトの活用による省人・省力化 2) 根固め、基礎、小口止のコンクリート二次製品化による工程短縮 3) 現場見学会、インターンシップの実施（中学・高等学校）		
写 真			
完 成（N08+5.2～起点望む）		完 成（N017+18.4～起点望む）	

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 本工事は、令和4年8月の豪雨出水により被災した河川災害復旧工事である。
- ・ 地域のためにも早期復旧が必要であったが、河川増水による作業中止や仮締切内への湧水量の増加に伴う現場復旧期間の影響が大きく工程管理が課題となったが、作業の効率化に積極的に取り組んだことにより、当初想定していた施工日数よりも大幅な短縮を図り工期内に工事を完成させた。
- ・ 中学校等の現場見学会及びインターンシップへの対応や、避難者への飲料水等の無償提供についても貢献度が非常に高かったものと評価できる。

◆施工業者からのPR

- ・ 当現場では、現況測量から目的物の構築までの一連の施工をICT化し、3D設計データの活用を日々の施工に取り入れた。
- ・ 護岸工において、法留基礎・小口止・根固めブロックを全て二次製品化し、型枠・打設・養生等の作業日数の短縮を図った。工種毎に作業員全員で作業手順を見直し、繰返し工程をフォローアップすることで、週休二日及び早期完成の両立を図ることができた。
- ・ 地元中学校等への現場見学会・インターンシップを実施し、建設現場の魅力を発信した。また本工事の施工中の7月豪雨において、工事箇所付近に避難指示が発令されたことから、現場事務所に備蓄してある飲料水等を避難所に無償提供し、地域貢献に寄与することができた。

10 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	金足西部地区 農地集積加速化基盤整備工事 08306-K09		
路河川名/地区名	金足西部地区	施工地名	秋田市金足
商号又は名称	秋田瀝青建設株式会社	許可番号	05-001353
請 負 額	337,334,800 円	工 種 ・ 格 付	一般土木 A 級
代 表 者	代表取締役 齊藤 豊隆		
監理技術者等	監理技術者 成田 学		
監督実施公所	秋田地域振興局（農林部）		
主任監督員	杉渕 智博	監 督 員	登藤 大智
工 期	令和5年3月29日～ 令和6年7月19日	完成年月日	令和6年7月19日
概 要	1) 整地工 A=10.7ha 2) 用水路工 L=1,973m 3) 排水路工 L=1,885m 4) 道路工 L=1,947m		
特 徴	1) 軟弱地盤対策工法におけるコスト縮減、工期短縮 2) 社会的条件の制約を受ける工事		
写 真			
施工状況  振動・騒音計設置  防護柵設置 			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・本工事は、周辺一帯に軟弱地盤が広がる地域のほ場整備工事であるが、施工業者からの提案により、施工コストの縮減および工期短縮を実現した。
- ・一部、福祉施設に隣接しているため、施設管理者と綿密な打合せを行い、振動騒音対策等、入所者の安全確保に配慮した。
- ・県道横断施工にあたっては、交通量の多い路線であることから、通行車両の安全確保を図るため、夜間工事を実施した。
- ・工事実施中に豪雨災害が発生したため、本工事を一時中断し、早期の復旧作業に尽力した。

◆施工業者からのPR

- ・本工事は軟弱基盤（泥炭層）という自然条件に対し、山砂による基盤構築としていたが、耕地区画を当初設計の半分とすることで山砂の使用量を抑制し、かつ工期短縮を図った。
- ・社会福祉法人「愛心苑」への配慮として、振動・騒音計設置、施設外周へ単管製防護柵設置、「反転均平工法」の採用による工期短縮のほか、作業は施設休館日及び利用時間外に限定する等の対応を行った。
- ・県道横断施工にあたり、日中の交通量が非常に多い路線であったため、企業努力による夜間工事を行い、安全確保に努めた。
- ・令和5年7月豪雨では本工事の作業を一時中断し、過年度施工区域の復旧作業に協力した。

1 1 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	戸島地区 農地集積加速化基盤整備工事 10204-K12		
路河川名/地区名	戸島地区	施工地名	秋田市河辺戸島
商号又は名称	株式会社最上田組	許可番号	05-006460
請 負 額	204,730,900 円	工種・格付	一般土木 A級
代 表 者	代表取締役社長 最上田 晶		
監理技術者等	現場代理人 柳原 克美		
監督実施公所	秋田地域振興局（農林部）		
主任監督員	佐藤 奈津子	監 督 員	岩谷 剛明、相馬 健典
工 期	令和6年4月26日～ 令和7年1月31日	完成年月日	令和6年12月20日
概 要	1) 整地工 A=9.6ha 2) 排水路工 L=1,396m 3) 道路工 L=1,668m		
特 徴	1) 軟弱地盤地帯での区画整理工事 2) 耕作者（農業法人）と協議調整が必要な工事		
写 真			
【着工前】		【完 成】	
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・本工事は軟弱地盤地帯という厳しい条件下において区画整理を行い、かつ地耐力を確保するという非常に難易度の高い工事である。
- ・現場は長年の休耕により中低木が密生し、設計表土量の確保が困難な状態であったが、モアとトラクターの2回耕起により、草類の粉碎と表土へのすき込みを行い、設計表土量を確保した。
- ・軟弱地帯では重機の走行も困難な状況であったが、工区周りへの仮排水路施工の他に田面への明渠の施工による徹底した乾田化により、地耐力のある良質なほ場に仕上げた。
- ・これらの困難な自然状況下において、余裕をもって工事を完成した。

◆施工業者からのPR

- ・事前調査の結果、工事範囲の約8割が休耕田でヨシや中低木が生い茂っていたことから、モアによる草類粉碎及びトラクター耕起による表土量の確保を提案実施した他、軟弱地盤対策として日々田面の乾燥化に努めた。また、敷鉄板の工夫による各工程の円滑化を図った。
- ・他工区より二ヶ月遅れの本工事開始ではあったが、関係各位の親身なご指導の基、当社が持ち得る機動力を最大限に発揮した結果、工期に余裕をもち無事故で完工できた事に感謝する。

12 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	餅ヶ沢地区 災害関連緊急治山工事 RD1124A131		
路河川名/地区名	餅ヶ沢地区	施工地名	男鹿市船川港比詰
商号又は名称	株式会社加藤組	許可番号	05-040733
請 負 額	76,269,600 円	工 種 ・ 格 付	一般土木 A 級
代 表 者	代表取締役 加藤 義光		
監理技術者等	現場代理人 成田 義則		
監督実施公所	秋田地域振興局（農林部）		
主任監督員	武石 直久	監 督 員	加藤 寛樹
工 期	令和6年3月27日～ 令和7年3月19日	完成年月日	令和7年3月19日
概 要	1) 山腹工 A=0.43ha （鋼製（かご枠）土留工 N=3基、簡易法枠工 A=796.8m2ほか） 2) 仮設工（任意仮設）N=1式		
特 徴	1) 大雨による山腹崩落箇所の災害緊急工事 2) 高低差が大きく急峻で施工条件が厳しい現場		
写 真			
完成（下部から）		完成（上部から）	
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・本地区は、令和5年7月の大雨で発生した山腹崩壊の復旧対策で、斜面には不安定土砂が堆積し再度の降雨で直下の県道等に被害を及ぼす可能性が高く早急に復旧を求められる地区であった。
- ・現場は急峻で高低差が大きく多くの不安定土砂があることから、高い技術力のほか十分な安全対策も考慮した施工が求められる現場であった。
- ・工事は、現場上部から施工する必要があったことから、建設機械や資材を搬入する仮設道路を斜面内に作設する必要があり、この際、走行時の安全を確保するため、鉄板底面への碎石の敷設や敷鉄板の溶接など滑り止め対策を講じた。
- ・近隣工事との重機や資材搬入等の情報共有や暗渠工の効率的な施工等、独自のアイデアで工事を進め、工期限内に工事を完了することができた。

◆施工業者からのPR

- ・現場は高低差が大きく急峻で横幅が狭く奥に長い形状であり、山腹上部から施工する必要があったことから斜面内に仮設道路を作設した。仮設道路は山砂や碎石を敷設した上に敷鉄板を設置し、ズレ防止のため溶接を施した。
- ・簡易法枠工の吹付モルタルは、冬期間の施工でもあったことから生コン工場のモルタルを使用して品質の向上を図った。
- ・暗渠工の裏込碎石の投入に生コン打設ホッパーを使用したほか、裏込断面をかたどった巻立て専用型枠を製作、活用して施工を行い、裏込材のロス削減や出来形の向上に務めた。
- ・近接工事の受注者と資材搬入等に関して工程等の打合せを行い作業を進めた。
- ・出入口を養生シート・マットで保護し雨天時の土砂流出防止に務めた。

13 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	防災・減災対策等強化工事 05-KA28-20		
路河川名/地区名	馬踏川	施工地名	秋田市金足堀内
商号又は名称	株式会社菅与組		許可番号 05-000958
請 負 額	178,775,300 円	工 種 ・ 格 付	一般土木 A 級
代 表 者	代表取締役 菅原 孝次郎		
監理技術者等	監理技術者 中道 航太		
監督実施公所	秋田地域振興局（建設部）		
主任監督員	小塚 貴紀	監 督 員	沼田 拓務
工 期	令和6年1月12日～ 令和7年3月26日	完成年月日	令和7年3月24日
概 要	1) 施工延長 L=152.9m 2) 掘削工 V=19,900m ³ 3) 平ブロック張 A=1,754m ²		
特 徴	1) 年度内に新河道への通水が必要となる条件下での施工 2) 騒音や振動に配慮する必要がある住宅地での施工 3) 軟弱地盤における施工		
写 真			
完成 (下流側より) 		完成 (上流側より) 	

◆監督実施公所の推薦理由

- ・複数の関連工事と同時施工するために要求される高度な工程管理を実践したことや、施工途中で追加となった工種に対しても迅速かつ丁寧に対応し、年度内に新河道へ通水させるとした条件が達成された。
- ・当該工事は住宅地へ近接している軟弱地盤内での施工であったが、騒音や振動に配慮した施工計画であったことや、地域住民からの理解が得られるようなコミュニケーションを図ったことが評価できる。
- ・関連工事との調整等により、護岸工事は冬期施工となったが、施工時期に合わせた対策を行ったことで、十分な品質が確保されている。

◆施工業者からのPR

- ・複数の関連工事との同一時期での施工であったことや、多くの追加工種の対応などがある中で、年度内における新河道への通水を条件とする工程管理が求められたが、柔軟な発想や様々な工夫により課題を克服することができた。
- ・当現場は住宅地に近接しており、加えて工区全体が軟弱地盤であることから、騒音や振動への配慮が重要な現場であったが、使用機械の選定、現場従事者への意識高揚、地域住民とのコミュニケーションなどに配慮したことで、大きな問題を発生させることはなかった。
- ・1年を超える工期であったが、気象条件に合わせた対策を講じたことで、適正な品質を確保し、工事を完成することができた。

14 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	地方道路交付金工事（改築） 04-HF30-K1		
路河川名/地区名	国道285号	施工地名	南秋田郡五城目町富津内
商号又は名称	株式会社加藤建設	許可番号	05-002392
請 負 額	149,832,100 円	工種・格付	一般土木 A級
代 表 者	代表取締役 加藤 正己		
監理技術者等	現場代理人 森元 恭兵		
監督実施公所	秋田地域振興局（建設部）		
主任監督員	松前 政勝	監 督 員	藤谷 和平
工 期	令和5年3月24日～ 令和6年7月31日	完成年月日	令和6年7月31日
概 要	1) 逆T式橋台 N=1基 2) 土留・仮締切工 N=1式 3) 仮橋・仮棧橋工 N=1式		
特 徴	1) 施工ヤードが狭隘であり仮橋及び工事用道路を設置 2) 気温変化が大きい時期のコンクリート打設工事		

写 真



◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 地域間交流を支える国道285号富津内地域のバイパス事業における新設橋梁の下部工躯体工事である。
- ・ 令和5年7月豪雨の際には、工事用道路の崩落等が生じたが速やかに復旧し工程への影響を最小限にとどめるとともに、周辺農地に堆積した土砂撤去等にも対応するなど、地域住民への高い配慮があった。
- ・ 冬期から夏期にかけて気温変化の大きい時期に順次コンクリートを打設する工程であったが、温度管理や養生に細心の注意を払い、高い品質を確保した。

◆施工業者からのPR

- ・ 本工事は、国道285号 富津内バイパス1号橋 A2橋台工事であり、当初設計では橋台の基礎は直接基礎を予定していたが、掘削の結果、推定していた岩盤線の位置と実際の岩盤線に差異があることが判明した。そのため、関係者間で協議を行い、基礎部の形状を変更する柔軟な対応を行った。結果として、当初計画とは異なる施工となったが、現場条件の変化に対して迅速かつ的確に対応し、無事に工事を完了することができた。
- ・ コンクリート打設後に生じる温度ひび割れや乾燥収縮ひび割れの発生が懸念されたため、堅壁および胸壁にスパンシル誘発目地材を設置することにより、コンクリートのひび割れを所定の位置に計画的に誘発させ、有害なひび割れの発生を抑制する対策を講じた。

15 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	放流設備改良工事 04-NG21-30		
路河川名/地区名	旭川ダム	施工地名	秋田市仁別マンタラメ
商号又は名称	興栄建設株式会社	許可番号	05-012175
請 負 額	142,947,200 円	工 種 ・ 格 付	鋼構造物 A 級
代 表 者	代表取締役 齋藤 靖		
監理技術者等	現場代理人 菅原 義弥		
監督実施公所	秋田地域振興局（建設部）		
主任監督員	鈴木 友樹	監 督 員	高橋 達也
工 期	令和6年1月12日～ 令和7年3月31日	完成年月日	令和7年3月25日
概 要	1) 開閉装置（ダム放流設備）（油圧ユニット・油圧シリンダー） 2) 背かご 3) 現場塗替塗装		
特 徴	1) 旭川ダム主ゲートの油圧シリンダーの更新 2) クレストゲートの配管、桁および操作室の塗装 3) 厳しい現場的制約を要する工事		
写 真			
			
完成(塗替塗装)		完成(油圧ユニット、油圧シリンダー)	

◆監督実施公所の推薦理由

- ・本事業は、昭和47年に竣工した旭川ダムの主ゲート（油圧ユニット・油圧シリンダー）の更新及びクレストゲートの配管、桁部の塗装を行うものである。
- ・本工事は施工箇所が狭所、高所及び施工時期による現場的制約を要する工事であった。
- ・主ゲート（油圧ユニット・油圧シリンダー）の更新作業について、一時的にゲート操作不能となることから非出水期での施工となったが、監査廊内の仮設及び資機材等の事前準備を徹底させるなど短期間での施工に努めた。また、山間部のクレストゲートの配管、桁部の塗替塗装については、施工時期によって品質が左右されることから過去の気象データを参考に影響しない時期を選定し、品質及び適切な工程管理に努めた。

◆施工業者からのPR

- ・ダムでの現場的制約が多い場所で、開閉装置荷卸や監査廊内人力運搬など、現場条件を考慮した施工方法・仮設計画の立案で適切な施工管理及び安全対策を行い、無事故で完成できた。
- ・開閉装置更新は非出水期での施工となるが、その間ゲート操作ができないため、限られた施工空間の有効利用、作業の効率化、装置の油流出対策など徹底して行い、時間短縮に努めた。
- ・開閉装置再利用部品の点検整備・清掃、既設油圧配管のフラッシングなどを行い、油圧装置の機能向上を図った。

16 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	象潟前川地区 農地中間管理機構関連ほ場整備工事 02501-K03		
路河川名/地区名	象潟前川地区	施工地名	にかほ市象潟町
商号又は名称	森建設工業株式会社		許可番号 05-004732
請 負 額	144,131,900 円	工 種 ・ 格 付	一般土木 A 級
代 表 者	代表取締役 森 恵一		
監理技術者等	現場代理人 細矢 浩之		
監督実施公所	由利地域振興局（農林部）		
主任監督員	阿部 喜孝	監 督 員	近藤 広貴
工 期	令和6年3月28日～ 令和7年1月31日	完成年月日	令和7年1月31日
概 要	1) 整地工 A=9.8ha 2) 水路工 L=2,591m 3) 道路工 L=2,017m		
特 徴	1) 天然記念物「九十九島」による工事への制約 2) 多様な基盤状況への対応 3) 地域への貢献に努めた工事		
写 真			
施工前		施工後	
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 本工事は、ほ場の大区画化や土水路の装工、農道の拡幅等により、営農の効率化・省力化を図り、高収益作物の取り組み拡大を目的とするほ場整備工事である。
- ・ 工事区域内に九十九島が点在しており、島の線形に合わせた施工など制約がある中、計画的に工程を管理し工期に遅れを生じさせることなく工事を完了させた。
- ・ 掘削時に軟弱地盤や砂質地盤からの湧水が出現し、構造物の不同沈下や水路内へ砂の流入が懸念されたが、木杭による基礎処理や水路目地部へ吸出し防止材を設置し、未然防止を図った。
- ・ 工事期間を通してインターンシップを受け入れたほか、小学生を対象に実施された工事区域内での「自然観察会」において、移動経路での安全対策や生物捕獲の補助等、環境教育へも貢献し、次世代につながる取組に努めた。

◆施工業者からのPR

- ・ 現場内の九十九島には貴重な石柱等があり現地調査では見落とし等がない様に細心の注意を払った。また、工事期間中は島の周囲に関係者以外立入禁止用の柵を設置するなど島の保護活動に尽力した。
- ・ 九十九島周辺は元々海（潟）だった為、地盤が砂質系で湧水も多い場所である。基盤整地作業では基盤を乱さないよう保護砂を敷設し走行経路を確保し、排水路工では軟弱地盤及び湧水処理として木杭打込みによる基礎処理及び吸出し防止材を適宜敷設し対策を講じた。
- ・ 地元小学生が参加した生き物移植イベントでは、地域貢献として会場への歩行者通路の整備や生物の説明等に協力した。

17 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	大規模特定河川工事 05-KG40-10		
路河川名/地区名	一級河川 芋川	施工地名	由利本荘市徳沢
商号又は名称	株式会社鳥海リース	許可番号	05-009883
請 負 額	118,805,500 円	工種・格付	一般土木 A 級
代 表 者	代表取締役 鈴木 一明		
監理技術者等	現場代理人 田口 彰		
監督実施公所	由利地域振興局（建設部）		
主任監督員	伊藤 茂樹	監 督 員	佐藤 壮太
工 期	令和6年4月12日～ 令和6年12月13日	完成年月日	令和6年11月29日
概 要	1) 施工延長 L=500.0m 2) 掘削工（ICT） V=23,400m ³ 3) 法面整形工（ICT） A=2,090m ²		
特 徴	1) 発注者指定型ICT活用モデル工事（ICT土工） 2) 完全週休2日制工事		
写 真			
 			
着手前 完成後			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・本工事は、一級河川芋川の流下能力向上を目的とした河道掘削である。
- ・ICT建機の活用による工期短縮に加え、施工履歴やGNSSローバーを用いた出来形管理によって、生産性の向上と高精度な施工を実現した点は高く評価される。特に、ICT建機を自社で導入し運用していることから、その技術力と先進性、そして企業としての技術革新への積極的な取り組みが評価される。
- ・工事用道路の一部が農道と重複する現場であったが、耕作者や地元住民と緊密に連携することでトラブルを未然に防ぎ、工期にも余裕をもって完成させた、他の模範となる工事である。これらの成果は、特に現場代理人の熱意ある姿勢が結実したものであり、高く評価される。

◆施工業者からのPR

- ・従来の地上型レーザースキャナでの出来形管理は、天候による計測不能や手戻りが課題であった。そこで、施工履歴データを活用する方式へ転換し、自社重機も対応機種へ更新した。これにより、天候に左右されない効率的な管理体制が確立されたことで、手戻り作業をなくすることができ、工期短縮、さらに完全週休二日を達成することができた。
- ・ダンプトラックの過積載・過少積載を防止するため、荷重判定装置「ペイロードチェッカー」付きバックホウを導入した。オペレーターは積載状況をリアルタイムで把握できるため、誰が担当しても過不足のない正確な積込みが可能となり、現場の安全性と生産性が大幅に向上した。

18 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	道路災害復旧工事 05-0117-20		
路河川名/地区名	(主) 秋田雄和本荘線	施工地名	由利本荘市中俣
商号又は名称	渡部機工・伊藤組造園・岡精組特定建設工事共同企業体		
請 負 額	121,080,300 円	工 種・格付	法面 A 級
代 表 者	株式会社 渡部機工	代表取締役	藤原 秀則
許可番号	05-060205	監理技術者等	現場代理人 小野 正樹
(構 成 員)	株式会社 伊藤組造園	代表取締役	久米 君雄
(許可番号)	05-009436	(監理技術者等)	主任技術者 平山 晋
(構 成 員)	株式会社 岡精組	代表取締役	橋本 充
(許可番号)	05-003844	(監理技術者等)	主任技術者 佐藤 廣美
監督実施公所	由利地域振興局 (建設部)		
主任監督員	佐々木 俊也	監 督 員	木内 瞳
工 期	令和6年6月7日～ 令和7年3月21日	完成年月日	令和6年12月23日
概 要	1) 復旧延長 L=57.0m 2) 植生基材吹付工 A=1,210m ² 3) 集水ボーリング L=83m 4) 鉄筋挿入工 N=346本 5) 受圧板設置工 N=346枚		
特 徴	1) 豪雨災害による被災法面での道路災害復旧工事 2) 現道規制の早期解除が望まれる現場での大幅な工期短縮 3) 施工中の令和6年7月豪雨(激甚災)にも適切な現場管理で対応		
写 真			
 ▲写真-1 法面崩落の被災  ▲写真-2 無足場削孔工法  ▲写真-3 降雪期前の完成			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・本路線は由利本荘市大内地域と秋田市雄和地域を結ぶ生活道路のほか「秋田空港」へのアクセスにも寄与する重要な路線である。
- ・本工事は令和5年7月豪雨による法面崩落の影響で被災直後は全面通行止め。土砂撤去後もトンネルを含む片側通行規制が続き、道路利用者から早期復旧が望まれていた箇所である。
- ・崩落土内に残存する道路施設(不可視部分)の被災状況を確認しながらの工事施工であったため不測の日数を要したが、施工業者からの施工提案により大幅な工期短縮が図られ、降雪期前の工事完成となった。

◆施工業者からのPR

- ・早期の交通規制解除が望まれる施工箇所であったため、作業効率を向上する施工方法を提案するなど工程管理を適切に行った結果、工期短縮が可能となり降雪期前に工事を完成させた。
- ・本工事の主作業である鉄筋挿入工は足場仮設の併用が工事全体の所要工程に大きく影響することから、足場の省力化が可能な無足場削孔工法(SD工法)を提案し工程の大幅短縮を実現した。
- ・ふとんかご工においても、人力による石詰作業の省力化が可能な施工方法として碎石メッシュカゴ工(NETIS登録)を提案し工程の大幅短縮を実現した。
- ・施工中に発生した令和6年7月豪雨による切土法面の表層浸食被害と計画外の地山湧水箇所の対応として、暗渠管の敷設およびソイルセメント吹付で現状復旧を行った。

19 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	太田南部地区 農地集積加速化基盤整備工事 09904-K20		
路河川名/地区名	太田南部地区	施工地名	大仙市太田町横沢
商号又は名称	はりま建設株式会社	許可番号	00-009802
請 負 額	131,772,300 円	工 種 ・ 格 付	一般土木 A 級
代 表 者	代表取締役 播間 泰		
監理技術者等	現場代理人 熊谷 拓海		
監督実施公所	仙北地域振興局（農林部）		
主任監督員	加藤 佳介	監 督 員	伊藤 光輝
工 期	令和6年3月29日～ 令和6年12月13日	完成年月日	令和6年12月6日
概 要	1) 整地工 A=8.9ha 2) 用水路工 L=1,664m 3) 排水路工 L=1,727m 4) 道路工 L=1,440m		
特 徴	1) 工事期間中における事前の大雨対策、被災後の復旧 2) 既設パイプライン (VUφ400) が工区中央部に埋設		
写 真			
			
大雨対策の土側溝		既設パイプラインの土被り管理	

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 本工事は、農業生産の効率化と高度化を図るため、ほ場の区画拡大等を行う工事である。農地の区画整理のほか道水路整備も併せて行うものであり、工事にあたっては周辺環境に配慮しつつ、営農開始まで一定の整備水準により実施することが求められる。
- ・ 地区固有の既設パイプライン(VUφ400)へ配慮しながらの施工や近年頻発するゲリラ豪雨等への対策を講じることにより、工程の遅れもなく計画的に工事の進捗を図った。

◆施工業者からのPR

- ・ 隣接する工事と排水路が接続するまでの期間、大雨が発生した場合に市道や近隣家屋（3世帯）へ浸水被害の懸念があった。現地を事前に調査・確認し、十分想定されるリスクを勘案し、土側溝を新たに施工して排水の逃げ道を確保することで、溢水による被害の未然防止を図った。
- ・ 工区の中央部を横断する既設パイプラインを試掘した結果、適切な土被りが確保されていないことが判明した。設計の見直しにより、必要な土被りを確保しつつ農地面積の縮小を最低限に抑え、最適な整備に努めた。
- ・ 高気温時の熱中症対策など安全衛生面に留意すると共に、施工体制や工程のコントロールに努め、安全と品質の両面において管理を徹底した。

20 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	西台地区 農地中間管理機構関連ほ場整備工事 01902-K01		
路河川名/地区名	西台地区	施工地名	大仙市協和下淀川
商号又は名称	進藤建設株式会社		許可番号 05-002019
請 負 額	80,654,200 円	工 種 ・ 格 付	一般土木 A 級
代 表 者	代表取締役 進藤 章		
監理技術者等	現場代理人 今野 祐太		
監督実施公所	仙北地域振興局（農林部）		
主任監督員	長谷部 博行	監 督 員	高橋 真太郎、北野 恋
工 期	令和6年3月29日～ 令和7年1月31日	完成年月日	令和7年1月14日
概 要	1) 整地工 A=4.8ha 2) 排水路工 L=1,023m 3) 道路工 L=683m 4) 管水路工 L= 502m		
特 徴	1) 現況表土に混入している石礫除去 2) 3D技術を活用した施工管理への取組 3) 外部機関による現場点検及び安全教育講習の実施		
写 真			
			
整地工完了		現況表土の石礫除去	

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 本工事は、農業生産の効率化と高度化を図るため、ほ場の区画拡大等を行う工事である。農地の区画整理のほか道水路整備も併せて行うものであり、工事にあたっては周辺環境に配慮しつつ、営農開始まで一定の整備水準により実施されることが求められる。
- ・ このような条件の中、当該工事では着手時の現地調査で現況田の表面に多数の石礫が見られたため、スケルトンバケットを使用し表土と石礫を分別する作業を実施したほか、整備水準の確保や労働力軽減を目的に、高低差のある施工箇所に3D技術を活用した施工管理を行うなど様々な工夫を行っており、手戻りや遅れ等の発生もなく工期内に完了している。
- ・ 以上により、本工事の取り組みは他の模範となることから優良工事として推薦する。

◆施工業者からのPR

- ・ 着手時の現地調査で多数の石礫が現況田面に見られ、表土としての使用が困難な状況であったが、その対策としてバックホウに網目状のスケルトンバケットを使用し、表土と石礫の分別作業を行った。また、網目を通過した小石は人力により約20日程度かけて除去した。その結果、耕起等の作業性が向上したほか、農機破損の不安が解消されたと耕作者より評価をいただいた。
- ・ 現場は現況地形に勾配があるため、基となる3D図面の作成を行い、自動追尾トータルステーションを活用して丁張設置作業を行った。その結果、事前測量作業の効率化および省力化が実現できたほか、適正な施工管理により品質確保に繋げることができた。

2 1 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	太田南部地区 農地集積加速化基盤整備工事 09904-K18		
路河川名/地区名	太田南部地区	施工地名	大仙市太田町横沢
商号又は名称	T a k a m i t u株式会社		許可番号 05-060216
請 負 額	120, 202, 500 円	工 種 ・ 格 付	一般土木 A 級
代 表 者	代表取締役 高橋 祥享		
監理技術者等	現場代理人 太田 征岐		
監督実施公所	仙北地域振興局（農林部）		
主任監督員	加藤 佳介	監 督 員	伊藤 光輝
工 期	令和6年3月29日～ 令和6年12月6日	完成年月日	令和6年12月6日
概 要	1) 整地工 A=8.2ha 2) 用水路工 L=981m 3) 排水路工 L=1,646m 4) 道路工 L=750m		
特 徴	1) 大雨による冠水に対し、迅速に応急復旧を行った現場 2) ICT施工による作業効率向上		
写 真			
ICT施工(マシンコントロール)	テニスコート復旧作業	若手社員の活躍	
	 		

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 本工事は、農業生産の効率化と高度化を図るため、ほ場の区画拡大等を行う工事である。農地の区画整理のほか道水路整備も併せて行うものであり、工事にあたっては周辺環境に配慮しつつ、営農開始まで一定の整備水準により実施されることが求められる。
- ・ 梅雨による天候不良で土移動を伴う整地作業等が遅れ気味であったが、ICT施工により工程の遅れもなく計画的に工事の進捗が図られた。
- ・ 地域の憩いの場であるテニスコートが大雨により被災したが、施工業者の迅速な復旧作業により地域貢献が図られた。

◆施工業者からのPR

- ・ 大雨災害への迅速な対応により、わずか数日でテニスコートを復旧し、地域への影響を最小限に抑えた。
- ・ 建設業における労働力不足の中、経験の浅い若手社員に対してICT施工（マシンコントロール）を積極的に実施させる決断をし、効率的かつ高精度な施工を実現。限られた人員でも工程の進捗を確保し、若手の技術習得と人材育成につなげた。
- ・ 職場体験やインターンシップを通じて建設業の魅力を発信し、女性2名の新規採用につながった。今後も人材育成と働きやすい環境づくりに取り組んでいきたい。

22 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	道路メンテナンス工事（橋梁補修） 05-F156-26		
路河川名/地区名	国道105号	施工地名	仙北市西木町上桧木内
商号又は名称	株式会社西宮組		許可番号 05-081672
請 負 額	76,731,600 円	工種・格付	一般土木 A級
代 表 者	代表取締役 西宮 優太		
監理技術者等	現場代理人 遠藤 昭人		
監督実施公所	仙北地域振興局（建設部）		
主任監督員	堀井 克則	監 督 員	三浦 俊明
工 期	令和5年9月4日～ 令和6年7月29日	完成年月日	令和6年7月29日
概 要	1) 橋長L=27.0m W=6.5(10.7)m 2) A2橋台 N=1基 3) 護岸工 A=117m2		
特 徴	1) ICTを活用した施工管理への取り組み 2) 冬期間の施工時期に限定された工事		
写 真			
完成写真 起点側～		完成写真 東側～	
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 施工時期が非出水期に限られる護岸工事に対応するため、施工方法に工夫が見られたほか、綿密な工程管理により期間内で工事が完成した。また、冬期間の工事で施工条件が厳しい中、雪寒仮囲いを実施するなど品質向上のための対策が取られた。
- ・ 進入路の施工に当たっては、国道105号からの大型車の出入りがスムーズになるよう工夫し、一般車の通行の安全確保が行われた。
- ・ 起工測量に高精度の地形データ（3Dデータ）が把握できるUAVレーザー測量を用いたほか、橋台の出来形管理に効率的で正確な管理が出来る地上型レーザースキャナー（TLS）を用いるなど、今後の建設工事を見据えたICT活用への積極的な取り組みが評価できる。

◆施工業者からのPR

- ・ ICT活用三次元化による橋台築造の出来形管理において、ドローンによる空撮、レーザースキャナーによる計測を行い、基準点を基に点群化（三次元化）し、そのデータを利用して計画橋台をデータ図化した。その作業により事前に机上で位置や高さ法線の確認が可能となった。掘削位置、フーチングの位置出しにも活用でき、完成後の出来形測定も従来は高所での作業となるが、三次元化による座標値（XYZ）測定により確認することができた。支承アンカー箱抜き位置もトータルステーション（TS）を使用して二重チェックを行ったが、精度が高く施工管理に活用することができた。

23 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	広域河川改修工事 05-KA20-88		
路河川名/地区名	淀川	施工地名	大仙市協和下淀川
商号又は名称	株式会社荒屋舗建設		許可番号 05-002793
請 負 額	166,615,900 円	工種・格付	一般土木 A級
代 表 者	代表取締役 今野 春夫		
監理技術者等	現場代理人 鈴木 誠幸		
監督実施公所	仙北地域振興局（建設部）		
主任監督員	鎌田 幸雄	監 督 員	山下 智
工 期	令和5年7月14日～ 令和6年5月31日	完成年月日	令和6年5月31日
概 要	1) 施工延長 L=109.7m 2) 河川土工 N=1式 3) 平ブロック張 A=2,184㎡		
特 徴	1) 発注者指定型ICT活用モデル工事 (ICT土工) 2) 発注者指定型女性技術者活躍モデル工事		
写 真			
着手  完 成 			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・隣接する下流側の工事と同じ工事用道路を使用するなど制限があるなか、打合せを密に行い、施工順序の工夫を図り、完全週休二日を達成した。
- ・護岸工にもICT技術を活用し断面形状の変化点を3次元化することにより、測量作業の効率化を図った。また、3次元化することで、製作工場に平ブロック張りの加工依頼を行い、現場打ちコンクリートの省略可を図るなどの工夫は評価される。
- ・隣接する国道341号（馬場橋交差点）で一般車両による架空線ケーブル破損事故が発生した際に、事故車両がそのまま逃走した為、直ちに110番通報を行った他、ケーブルが弛んでいたことから、警察に現場を引き継ぐまで通行車両を交通誘導したことは評価される。

◆施工業者からのPR

- ・本工事ではICT技術を活用とした土工のほかに護岸工にも活用した。護岸の断面形状の変化点を3次元化することにより、複雑な丁張作業がなくなり測量作業の軽減ができた。また、3次元化することで、製作工場に平ブロック張りを加工依頼し、現場打ちコンクリートの省略可を図った。施工は断面形状をモニターで確認しながら、マシンコントロールによる作業で施工することで効率化を図り、現場の生産性や重機作業の施工精度を向上させた。
- ・本工事は女性技術者活躍モデル工事の発注者指定型であったが、有資格者（2級土木施工管理技士）の若手女性技術員を登用した他、遠隔臨場やICT出来形・品質管理のノウハウを指導する事により、若手女性技術員の育成に努めると同時に現場への意欲を向上させることができた。

24 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	蛭野・角間川堰地区 かんがい排水工事 00407-K02		
路河川名/地区名	蛭野・角間川堰地区	施工地名	横手市大雄
商号又は名称	伊藤建設工業株式会社		許可番号 00-024734
請 負 額	130,384,100 円	工種・格付	一般土木 A級
代 表 者	代表取締役 中村 清昭		
監理技術者等	現場代理人 荒川 道義		
監督実施公所	平鹿地域振興局（農林部）		
主任監督員	袴田 直幹	監 督 員	今川 貴秋
工 期	令和6年8月9日～ 令和7年3月25日	完成年月日	令和7年3月25日
概 要	1) 排水路工（大型フリューム） L=131m		
特 徴	1) 地域住民の生活に配慮した居住区域内での施工 2) 厳しい条件（作業範囲の制約・排水の処理）での施工		

写 真

完 成



◆監督実施公所の推薦理由

- ・当該施工地は居住区域のため、地域住民の生活へ配慮した安全面等の各種対策や施工の制約、また、工区外からの大量の排水の処理が必要となるなど厳しい条件の中での施工が求められたが、綿密かつ入念な施工計画の策定や工程管理等により事故もなく完成させた。
- ・施工においては、コンクリートポンプ車打設やプレキャスト製品の積極的な使用などによる効率化や、冬季施工のため品質の確保を目的に、コンクリート構造物では雪寒仮囲施設を設置し適正な養生管理を図った。
- ・先進技術（ICT建設機械による土工作業や自動追尾機能搭載計測機器の活用）の導入や、積極的な女性技術者の登用、またインターンシップによる建設業のPRにも努めた。

◆施工業者からのPR

- ・居住区域内のため水路施工箇所には建物や架空線等が近接し機械作業の制約があったが、作業半径時の定格荷重に十分余裕をもったクレーン機種を選定し、機械の転倒防止を図った。
- ・水中ポンプ水替え時の騒音環境対策として、商用電源の使用や水中ポンプ部に防音シートを設置するなどし、近隣地域住民へ配慮を図った。
- ・ICT建設機械による施工（水路の床掘）など先進技術を積極的に導入した。
- ・女性技術者を積極的に登用し、女性専用の更衣室等を設置するなど現場環境の向上を図った。
- ・学生に就業体験の場を提供し建設業により興味を持ってもらうようアピールした。

25 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	地方道路交付金工事（改築） 05-HF96-10		
路河川名/地区名	（主）横手東成瀬線	施工地名	横手市山内南郷
商号又は名称	ミノル工業株式会社	許可番号	05-081968
請 負 額	68,121,900 円	工 種 ・ 格 付	舗装 A 級
代 表 者	代表取締役社長 神谷 大基		
監理技術者等	現場代理人 佐々木 恒		
監督実施公所	平鹿地域振興局（建設部）		
主任監督員	高階 優子	監 督 員	加藤 雅俊
工 期	令和6年3月29日～ 令和7年3月21日	完成年月日	令和6年12月24日
概 要	1) 施工延長 L=256m 2) アスファルト舗装工 A=2,347m ² 3) 道路土工 N=1式		
特 徴	1) 走行車両の視距確保のための路肩拡幅・縦断線形改良工事 2) ICT技術を活用し、舗装工の品質を向上 3) 関連工事との詳細な施工計画立案による適切な工程・安全管理		
写 真			
着手前		完成後	
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・カーブ区間でかつ急勾配の見通しが悪い区間での工事であり、道路路面を下げるため複数回にわたって片側規制を行う必要があったが、工期内に余裕を持って工事を完成させた。
- ・レーザースキャナーを用いた3次元起工測量や3次元設計データ作成による施工管理に取り組み、ICT技術を積極的に活用し、綿密な管理を行ったため、精度の高い出来形となった。
- ・関連工事との調整を要する工事であったが、詳細な施工計画を立案し施工を進めたことにより利用者からの苦情や事故がなく安全に供用を開始できた。
- ・地元高校の現場見学会への協力や出前講座など建設業のイメージアップに率先して貢献した。
- ・その他、工事の出来形や品質、出来ばえが良く、これらの取り組みは他の模範となる。

◆施工業者からのPR

- ・本工事は見通しの悪いアップダウンの曲線道路を道路利用者が安全に通行できるように、計画高さを最大86cm盤下げし、道路を拡幅していくものだった。
- ・工事の課題は、①隣接水道工事との施工調整、②盤下げ施工時の安全施設計画、③ICTを用いた施工管理であった。①では互いの工程・施工調整から総合的にロスのない施工を実現した。②では警察・消防・市町村・近接住民と協議し、盤下げ施工期間の安全な通行を実現した。③では『ICT100%内製化』に挑戦し、起工測量（レーザースキャナー）～3D図面の作成、出来形管理（ICT）までを全て自社社員のみで行った。様々な課題があったが、最後まで完遂することができた。この経験を生かし、時代にマッチした生産性向上に努めていく。

26 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	道路メンテナンス工事（道路付属物） 05-F127-80		
路河川名/地区名	国道107号	施工地名	横手市雄物川町
商号又は名称	株式会社山田塗料店	許可番号	05-000120
請 負 額	76,195,900 円	工 種 ・ 格 付	一般塗装 A 級
代 表 者	代表取締役 石川 浩一		
監理技術者等	現場代理人 小林 大晃		
監督実施公所	平鹿地域振興局（建設部）		
主任監督員	佐藤 司	監 督 員	芳賀 豊明
工 期	令和6年8月23日～ 令和7年1月27日	完成年月日	令和6年12月20日
概 要	1) 塗替塗装 A=800m2		
特 徴	1) 循環式ブラスト工法（NETIS登録）を活用した工事 2) 山間部の厳しい現場条件下での終日通行規制 3) 隣接する同種工事との工程調整が必要		
写 真			
  			
完成写真 ブラスト作業状況 上塗り作業状況			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 本工事は、国道107号の山間部にあるスノーシェッド頂版部の再塗装である。当該工事は、仮設足場上での作業となり厳しい作業環境での施工を余儀なくされたが、労働災害や作業事故をおこすことなく無事工事を完了させた。
- ・ NETIS登録の循環式ブラスト工法により、研削材を再利用することで産業廃棄物の発生を抑え環境負荷を低減することができた。また従来のブラスト工法より粉塵の発生が少なく、作業環境の改善をすることができた。
- ・ 本工事はシェッド頂版の谷側と山側で分割発注されており、隣接する工事との調整が必要となる箇所であったが、仮設計画等の十分な調整を行った結果、両工事ともに事故無く工期内に完了した。

◆施工業者からのPR

- ・ 山間部で街灯が少ない為、終日片側交互通行の規制の夜間に、現場内にバルーン型の投光器を設置することで照度を確保し事故なく工事を終了することができた。
- ・ 塩害環境下において極めて優れた耐久性を示す塗料を使用するNETIS登録のタイエンダーシステム工法を提案・施工したことにより、塗装作業の短縮化（5工程を3工程）を図り塗膜厚を確保しながら工期を短縮することが可能となり、本格的な積雪時期を迎える前に工事を完了することができた。
- ・ NETIS登録の高塗着スプレーシステム工法を採用することにより、塗膜飛散による第三者への被害の防止、厳しい作業環境化での安全性の確保、均一な塗膜厚の確保ができ、品質を向上させることができた。

27 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	西ノ沢地区 復旧治山工事 RH1101A531		
路河川名/地区名	西ノ沢地区	施工地名	雄勝郡羽後町中仙道
商号又は名称	株式会社小野建設	許可番号	05-006332
請 負 額	49,038,089 円	工種・格付	一般土木 A級
代 表 者	代表取締役 小野 人平		
監理技術者等	現場代理人 武田 祐太		
監督実施公所	雄勝地域振興局（農林部）		
主任監督員	嶋貫 喜幸	監 督 員	倉田 大河
工 期	令和6年 3月29日～ 令和6年10月25日	完成年月日	令和6年10月25日
概 要	1)No. 3コンクリート床固工 (L=26.0m H=3.5m b=1.5m V=166.7m3) 2)No. 4コンクリート谷止工 (L=30.0m H=5.5m b=1.5m V=307.8m3)		
特 徴	1)急峻かつ狭隘な箇所での施工 2)木製残置型枠を使用したコンクリート治山ダム2基の施工 3)職場見学会の実施による担い手確保等の取組		
写 真			
No. 3コンクリート床固工		No. 4コンクリート谷止工	
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・当該施工地は、急峻、狭隘な地形でかつ適切な排水対策が求められる厳しい条件下であったが、優れた工程管理により工期内に工事を完成させた。
- ・出来形管理及びコンクリートの品質管理は極めて優れており、高い技術力を証明している。また、工事関係資料は適正かつ明瞭に整理されており、他の模範となるものである。
- ・着工時に地域住民へチラシを配布して工事への理解を求めるとともに、集落内での工事車両の通行に細心の注意を払い、工事期間を通して一切の苦情や事故を発生させなかった。
- ・地元の湯沢翔北高等学校の生徒を対象とした職場見学会を実施し、建設業界の魅力や重要性を伝えるなど、将来の担い手確保にも積極的に貢献した。

◆施工業者からのPR

- ・本工事を施工する上で第一に念頭に置いたのは山林所有者及び地域住民に対し工事への理解を得ることであった為、広報の配布や山林所有者への現場説明、地域貢献活動を行うなかで良好な関係を構築し、円滑な現場運営につながった。
- ・業務省力化を図るため、掘削においては3D掘削モデルと自動追尾型TSを組み合わせるなどデジタル技術を活用し、本体コンクリート打設においては打設時期が暑中コンクリートという環境下、打継面に硬化遅延剤を用いてレイトランス処理を省力化しつつ打継面を良好に保ち、作業員の負担軽減はもとより、本体構造物の品質確保に努めた。

28 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	地方道路交付金工事（改築） 05-HF25-K1		
路河川名/地区名	国道398号	施工地名	湯沢市稲庭町山ノ下
商号又は名称	株式会社皆瀬土木	許可番号	05-004615
請 負 額	66,331,100 円	工 種 ・ 格 付	一般土木 A 級
代 表 者	代表取締役 高橋 光明		
監理技術者等	現場代理人 堀江 勇		
監督実施公所	雄勝地域振興局（建設部）		
主任監督員	小林 勇	監 督 員	梅井 靖彦
工 期	令和6年4月1日～ 令和6年12月9日	完成年月日	令和6年12月9日
概 要	1) 逆T式橋台 A2橋台 N=1基		
特 徴	1) ICT活用モデル工事(構造物工 橋台)の対象(発注者指定型) 2) 施工会社によるCIM運用での見える化 3) 膨張材コンクリート使用等による品質確保		
写 真			
完 成		完成(埋戻し前)	
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・発注者指定型で橋台のICTモデル工事を実施し、地上型レーザースキャナーや3次元モデルを活用することにより、作業期間の短縮・省人力化を図ったほか、配筋の3次元モデルを作成することで、鉄筋干渉のチェックやイメージの明確化により、質の高い施工管理を行った。
- ・コンクリート用膨張材の使用によるひび割れ抑制、あらかじめ型枠を高くセットしコンクリート表面に水を張る湛水養生、鉄筋への防錆剤塗布など創意工夫により品質確保に努めた。
- ・建設産業体験学習会や建設業体験フェスタ、稲庭バイパス開通イベントにも積極的に協力し、建設業の魅力発信に貢献している。
- ・以上の理由から、他の工事の模範となる現場であり優良工事に推薦するものである。

◆施工業者からのPR

- ・今回初めて実施する構造物ICTモデル工事であったが、自社保有の地上型レーザースキャナーとモデル作成・管理用ソフトにより、点群測量から出来形管理までを全て直営で実施した。構造物ICTにおいては、点群データ取得時に足場が妨げになることから、レーザースキャナーを計測できる位置に何回も移動させる必要があったが、直営で実施したことで作業状況に応じたフォローが可能となった。また、施工についても自社で3次元掘削モデルを作成し、MGバックホウによる作業土工を実施。さらに、配筋3次元モデルを作成し、2次元では発見しにくい支承箱抜部の配筋干渉や型枠の組立不可能部分の可視化、発注者との打合せや現場見学への活用などICT技術をフル活用し、工程短縮・作業効率化・品質及び安全性向上・建設業PRにつなげた。

29 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	小和瀬発電所 大深ダム改良工事 05-DK-81		
路河川名/地区名	小和瀬発電所	施工地名	仙北市田沢湖田沢
商号又は名称	佐藤建設株式会社	許可番号	05-002576
請 負 額	290,911,500 円	工種・格付	一般土木 A 級
代 表 者	代表取締役 田村 保		
監理技術者等	現場代理人 津嶋 勝志		
監督実施公所	産業労働部 公営企業課 発電所建設室		
		監 督 員	木内 幸矢
工 期	令和5年6月2日～ 令和6年11月15日	完成年月日	令和6年11月12日
概 要	1) 堤体改良工 コンクリート打設工 V=340m3 2) 堤体改良工 ゴム系保護材設置工 A=199m2 3) 沈砂池補修工 N=1式		
特 徴	1) 急峻な地形による河川水位の急激な上昇 2) 狭隘な管理用道路 3) ツキノワグマ出没地域における施工		
写 真			
大深ダム（下流面）		大深ダム（上流面）	
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・本工事は、小和瀬発電所の最大の取水源である大深ダムについて、越流部摩耗等の経年劣化に対して、表面増厚、ゴム系保護材による摩耗対策等を行った工事である。
- ・本工事施工箇所は玉川源流域に位置し、県内有数の豪雪地帯で施工時期が限られるとともに、急峻な地形から降雨時には河川水位が急激に上昇するという特徴を有している。
- ・管理用道路は狭隘で大型車両による材料搬入は困難である。
- ・また、小和瀬発電所のリプレース工事に伴う発電停止期間内での工事完成が求められていた。
- ・このような施工条件に対して、令和5・6年度の複数の出水で仮設道路が流出するなど、工程遅延が生じたものの、迅速な対応で工程回復に努め工事を完成させた。

◆施工業者からのPR

- ・本工事の施工箇所は、国道341号を起点に黒石林道を10km進み、さらにダム管理用道路を4.5km進んだ玉川上流部に位置している。周辺山地の降雨が集中するため、施工中には度々出水に見舞われ型枠や仮締切りが流出したが、その都度工程計画を見直し、無事に工事を完成することができた。
- ・生コン運搬に際し、管理用道路の狭隘性から黒石林道との分岐部で小型車への積替えを行う現場運搬方法を確立し、施工ロスの低減を図った。
- ・施工箇所周辺ではツキノワグマの出没が相次ぎ、過去には人的被害も発生しており、工事施工中の安全対策として爆竹や鳴り物を携帯して熊遭遇への対策を図った。

30 第46回 秋田県優良工事表彰 受賞工事

◆工事概要

工 事 名	重要港湾改修工事 05-PA10-10		
路河川名/地区名	秋田港 本港地区	施工地名	秋田市土崎港
商号又は名称	三和興業株式会社		許可番号 05-080626
請 負 額	172,871,600 円	工 種 ・ 格 付	一般土木 A 級
代 表 者	代表取締役 武田 昭彦		
監理技術者等	現場代理人 加賀谷 久		
監督実施公所	秋田港湾事務所		
主任監督員	伊藤 雄幸	監 督 員	戸堀 航輔
工 期	令和5年9月1日～ 令和6年9月20日	完成年月日	令和6年9月20日
概 要	1) 施工延長 L=74.4m 2) 鋼矢板 (45H, L=19.5m) N=43枚 3) 鋼管杭 (φ500, L=9.5m) N=15本		
特 徴	1) 係留機能を集約するための岸壁工事 2) 波浪の影響を受ける工事 3) 観光施設近隣であり制約が多い工事		
写 真			
完 成		残置型枠ブロック据付状況	
			

◆監督実施公所の推薦理由

- ・ 本工事箇所は、航路に面しており通常の波浪の影響に加え船舶航行による航跡波の影響を受けることから気象・海象及び港内の船舶航行状況が作業効率に影響する難易度の高い工事である。
- ・ 波浪等の影響を受けるため、上部工施工時の工夫や事前の準備、波浪の影響を軽減するための創意工夫やフォローアップなど、責任を持って現場に取り組む姿勢が見られた。
- ・ 観光施設(セリオン)近隣での工事であることから周辺環境に配慮し、騒音・振動を抑える施工機械や施工方法の工夫が見られた。

◆施工業者からのPR

- ・ 本工事場所は秋田運河下流部の中島岸壁で、上流部には石油貯蔵施設や物揚場等があり、タンカー船や木材輸送船、漁船・遊漁船が頻繁に往来する区域であった。これら航行する船舶によって生じる航跡波や返し波が大きく、鋼矢板上部工施工時における型枠材の損壊・流出や鉄筋の塩害が生じる恐れがあったため、コンクリート製品による残置型枠工法を採用し、工程の短縮と耐久性・安全性・品質の向上を行った。
- ・ 観光施設(セリオン)が近接しているため、鋼管杭打設の際に騒音振動計を設置し、常時観測しながら作業を行った。また構造物取壊し時は圧砕機を使用することで騒音・振動の低減を行った。

秋田県優良工事表彰 選考委員会名簿

選考委員長	副	知	事	神部秀行
選考委員	総	務	部長	伊藤政仁
〃	農	林	水産部長	藤村幸司朗
〃	建	設	部長	小野潔
〃	出	納	局長	小熊新也

秋田県優良工事表彰 幹事会名簿

幹事長	建設部建設産業振興統括監	近藤雅
(秋田県入札制度適正化推進委員会技術専門部会)		
幹事部会長	徳重英信	
〃	副部会長	渡辺純也
〃	専門委員	後藤文彦
〃	専門委員	荻野俊寛
〃	専門委員	増田周平
〃	専門委員	長谷川兼一
〃	専門委員	浅野耕一
〃	専門委員	石山智
〃	専門委員	永吉武志
(秋田県知事部局関係課室)		
〃	農地整備課長	小野寺平崇
〃	森林環境保全課長	小野圭
〃	技術管理課長	出口和彦
〃	道路課長	石川康樹
〃	河川砂防課長	高杉英幹
〃	港湾空港課長	千葉政幸
〃	公営企業課	茂内孝

秋田県優良工事表彰要綱

(表彰の目的)

第1条 県が発注した工事のうち、優秀な工事を施工したものを表彰することにより、建設技術の向上を図ることを目的とする。

(表彰の対象)

第2条 対象は、前年度に完成した工事とし、秋田県工事成績評定に基づき評価されたものとする。

(表彰の名称)

第3条 名称は、「秋田県優良工事表彰」とする。

(表彰の基準)

第4条 次のすべてを満足すること。

- (1) 当該工事の出来形が優秀であること。
- (2) 当該工事全般の管理状況が良好であること。
- (3) 当該企業において労働災害がないこと。
- (4) 当該企業における各工事の施工成績が良好であること。
- (5) 建設業法を遵守し、他の模範とされる施工企業であること。

(推薦)

第5条 各所属長は、表彰することが相当と認める工事があるときは、選考委員長へ推薦するものとする。

(選考委員会)

第6条 表彰すべき工事を選考するため選考委員会を置き、その構成は、別表第1のとおりとする。

2 選考委員会は、次項の幹事会の調査報告に基づいて協議し、表彰すべき工事を決定するものとする。

3 選考委員会に幹事会を置き、その構成は別表第2のとおりとする。

4 幹事会は、各所属長より推薦のあった工事について、当該工事の調査を行い、その結果を選考委員会に報告するものとする。

(表彰)

第7条 表彰の種類は、優良工事表彰、特別表彰及び地域振興局長表彰とする。

2 被表彰者は、施工企業の代表者（共同企業体の場合にあっては、構成員のそれぞれの代表者）及びその工事を担当した監理技術者等とする。

(事務局)

第8条 事務局は、技術管理課に置く。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定めるものとする。

附 則

この要綱は、昭和55年5月1日から施行する。

平成10年3月27日一部改訂

平成12年4月1日一部改訂

平成16年4月1日一部改訂

平成18年4月1日一部改訂

平成19年4月1日一部改訂

平成20年4月1日一部改訂

平成21年6月1日一部改正

平成22年4月28日一部改正

平成23年4月25日一部改正

平成24年4月1日一部改正

平成28年2月9日一部改正

平成29年3月9日一部改正

平成30年3月16日一部改正

※上記要綱内の「別表第1」及び「別表第2」の構成員は、P35の名簿参照のこと。

第11回 秋田県優良業務表彰 業務一覧表

測量業務部門

番号	委 託 業 務 名	路河川名 /地区名	受注者名	代表者名	発注公所
1	県単港湾整備事業 深浅測量業務委託 06-O251-Y1	秋田港内港 地区	株式会社石川技研コンサル タント	井上 秀次郎	秋田港湾事務所
2	県単道路改築事業 路線測量業務委託 05-I101-Y2	国道341号	株式会社ウヌマ地域総研	鶴沼 順之	鹿角地域振興局
3	四ツ小屋南地区 農地集積加速 化基盤整備業務委託 10104-Y09	四ツ小屋南 地区	創和技術株式会社	伊藤 隆喜	秋田地域振興局

地質調査業務部門

番号	委 託 業 務 名	路河川名 /地区名	受注者名	代表者名	発注公所
1	地すべり調査業務委託 05-SG10-Y3	小淵地区	奥山ボーリング株式会社	奥山 信吾	北秋田地域振興局
2	金沢9地区 ため池等整備(ため 池)業務委託 06601-Y02	金沢9地区	東邦技術株式会社	石塚 三雄	仙北地域振興局

土木設計業務部門

番号	委 託 業 務 名	路河川名 /地区名	受注者名	代表者名	発注公所
1	排水樋管詳細設計業務委託 05-K170-Y3	小阿仁川	株式会社ウヌマ地域総研	鶴沼 順之	北秋田地域振興局
2	砂防堰堤詳細設計業務委託 05-LA23-Y2	寺ノ沢5	柴田工事調査株式会社	五十嵐 誠	北秋田地域振興局
3	護岸予備詳細設計業務委託 05-KA14-YB	太平川	セントラルコンサルタント 株式会社 東北支社 秋田営業所	佐藤 大起	秋田地域振興局
4	洪水量評価・洪水痕跡調査等業務委託 05-K246-Y3	馬場目川他	パシフィックコンサルタン ツ株式会社 秋田事務所	石井 勉	秋田地域振興局
5	蒲田地区 災害関連緊急治山業務委託 RE1124B101	蒲田地区	一般社団法人秋田県林業 コンサルタント	清水 譲	由利地域振興局

調査点検等業務部門

番号	委 託 業 務 名	路河川名 /地区名	受注者名	代表者名	発注公所
1	道路メンテナンス事業(効果促進) 橋梁点検業務委託 05-FI11-Y1	国道103号 ほか	株式会社ウヌマ地域総研	鶴沼 順之	鹿角地域振興局

用地調査等業務部門

番号	委 託 業 務 名	路河川名 /地区名	受注者名	代表者名	発注公所
1	地盤変動影響事前調査等業務委託 05-KT10-YP	太平川	柴田工事調査株式会社	五十嵐 誠	秋田地域振興局

測量業務部門 1 第 1 1 回 秋田県優良業務表彰 受賞業務概要

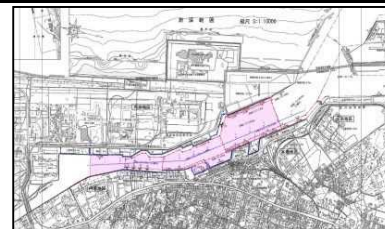
◆業務概要

委 託 名	県単港湾整備事業 深浅測量業務委託 06-O251-Y1		
地 区 名	秋田港内港地区		
商号又は名称	株式会社石川技研コンサルタント		
請 負 額	6,527,400 円	種 別	測量業務
代 表 者	代表取締役 井上 秀次郎		
管理技術者	和田 仁		
発注公所	秋田港湾事務所		
主任調査員	小野伸太郎	調 査 員	上杉 翔
工 期	令和6年6月7日 令和6年9月30日	完成年月日	令和6年9月30日
概 要	深浅測量 0.7km ²		

◆受注者の声

【1.業務の特徴】

秋田港内港地区での精密な深浅測量は、航路や泊地の安全確保および港湾施設の維持管理や整備計画の基礎資料を得ることを目的としている。マルチビーム音響測深により得られた成果は過年度データと比較され、地形の経年変化や土砂堆積状況の把握を可能とする。これらの結果は、浚渫計画や災害時の迅速な対応に資する重要な情報となる点が特徴である。



【2.業務遂行上の課題】

- (1) 地形変化や堆積状況を精密に把握するため、高精度な水深データの取得と、機器設置精度や水中音速度などの環境要因に対する正確な補正が求められる。
- (2) 堆積物や構造物の影響で小型船舶でしか航行不可能な浅部域では、マルチビーム測深が困難であり、その他の方法を併用する必要がある。
- (3) 初回協議において、一部区域の早期納品が望ましいとの認識が共有された。
- (4) 協議により追加エリアが発生し、迅速な測量対応と計画の見直しが必要となった。

【3.課題の解決に向けて工夫した点】 (2.(1)～(4)の対応)

- (1) 機器オフセットの精密計測や井桁走行等で精度管理を徹底し、水中音速度測定、潮位データの取得、パッチテストの実施により補正精度を高め、高品質なデータ取得を実現した。
- (2) 発注者と協議のうえ、浅部域においては、小型船舶に搭載したシングルビーム測深機およびレッドによる測深を併用する方法により対応した。
- (3) 早期納品対象区域を優先的に測量し、迅速なデータ取得、解析により先行納品を実現した。
- (4) 追加エリアについては既存スケジュールを調整し、効率的に測深業務を実施した。

【4.品質確保】

魚群や浮遊物によるノイズを除去し、測深データの品質を確保した。また、本測線に対して直交する照査線を設け、較差が基準内であることを確認することで、成果の信頼性を確保した。

◆発注公所の所見

土砂が堆積し浅くなった部分および構造物の影響で小型船舶でしか航行不可能な部分について、マルチビーム測深が困難であったが、シングルビーム測深およびレッドによる測深を併用することにより、細部まで測量することができた。また、発注者から指示した一部区域の早期納入および測量箇所追加について、工程管理を的確に行い、迅速に対応したことにより、滞りなく業務を行った。

測量業務部門2 第11回 秋田県優良業務表彰 受賞業務概要

◆業務概要

委 託 名	県単道路改築事業 路線測量業務委託 05-I101-Y2		
地 区 名	国道341号		
商号又は名称	株式会社ウヌマ地域総研		
請 負 額	20,450,100 円	種 別	測量業務
代 表 者	代表取締役 鶴沼 順之		
管理技術者	石綿 智幸		
発注公所	鹿角地域振興局（建設部）		
主任調査員	大森 信博	調 査 員	出雲 智也
工 期	令和5年6月30日 令和6年7月12日	完成年月日	令和6年7月12日
概 要	2級基準点測量 N=4点 4級基準点測量 N=39点 路線測量 L=1.2km 現地測量 A=0.06km ² 道路予備修正設計(A) L=1.2km		

◆受注者の声

【業務の特徴】

本業務は、国道341号坂比平地区において、道路改良計画を目的とし地形・路線測量等を実施したものである。当地は、玉川温泉・八幡平アスピーテラインなど観光地へのアクセスとして、利便性の高い幹線道路である。そのため、行楽期には交通量が大幅に増加することが予想され、測量作業の安全確保および交通への影響を最小限に抑える観点から、作業時期や時間帯について計画立案を綿密に実施した。

【業務において工夫した点】

- ①貸与資料を基に、条件点観測などを実施し、線形計画の妥当性を確認した。その結果、平面修正を行ったうえで道路予備修正設計(A)の必要性について提案・実施した。《業務内提案》
- ②現地測量は、UAVレーザを活用した三次元点群測量にて実施し、安全かつ迅速に地形データを取得した。取得したデータは、平面修正などに活用したほか予備・詳細設計時に活用できる基礎データとした。《BIM/CIM対応》
- ③UAVレーザ測量にて取得した点群データと同時撮影した空撮写真を生成した「三次元モデル」を作成し、全体をより詳細に把握する可視化を図った。《DX対応》
- ④UAVレーザなど新技術を取り入れることにより、作業期間の短縮化と災害業務との平行作業が可能となった。《フレキシブルな対応》



調査範囲全体図

◆発注公所の所見

本業務は、鹿角市から八幡平・玉川温泉・田沢湖等の観光地を結ぶ主要な観光道路における道路詳細設計を行うための路線測量業務である。当該区間は、幅員が狭く急カーブ、道路沿線には針葉樹が繁茂し見通しが悪く、観光バス等の大型車輛の往来が多い。測量作業を行う上で多くの制約がある中、UAVレーザを活用した三次元点群測量を実施し、安全かつ効率的に業務を行ったことが高く評価できる。貸与資料を確認し、必要な業務を提案し進めたことも評価できる。

測量業務部門3 第11回 秋田県優良業務表彰 受賞業務概要

◆業務概要

委 託 名	四ツ小屋南地区 農地集積加速化基盤整備業務委託 10104-Y09		
地 区 名	四ツ小屋南地区		
商号又は名称	創和技術株式会社		
請 負 額	7,568,000 円	種 別	測量業務
代 表 者	代表取締役 伊藤 隆喜		
管理技術者	金子 寛己		
発注公所	秋田地域振興局（農林部）		
主任調査員	柴橋 和彰	調 査 員	澤木 健斗
工 期	令和6年6月21日 令和7年1月31日	完成年月日	令和7年1月31日
概 要	整備区域境界測量 A=1.5ha		

◆受注者の声

- ・基準点測量（3級、4級）は**第三者機関の成果検定を実施**するため、成果確定まで多少の時間を要することが予測できた。特に4級は上位検定完了後になる事を考慮して計画を行った。
- ・現場作業開始を**稲刈り後**（9月中旬以降）と計画したため、現場踏査を十分に行い、申請する配点計画に変更がないよう作業を進めた。また、現地立会を**降雪前**（12月上旬）に完了できる作業計画で行った。

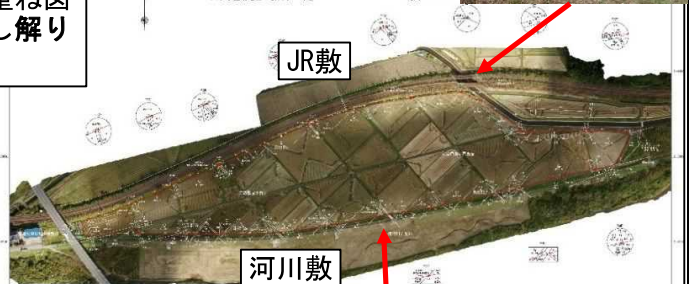
有益な資料作成の為、担当職員に提案・協議を行い、稲刈り後に基準点測量と並行して空撮作業を実施し、**最新のオルソ画像**を作成した。作成したオルソ画像と確認図を合成した重ね図を作成したほか、各種資料や成果に利用し**解り易い成果**とした。



立会時の資料も重ね図を利用し
現地と図面の確認をした



3級基準点は工事完了まで
残る箇所に設置



オルソ重ね図で現況と相違する箇所の資料を作成し協議資料とした



◆発注公所の所見

境界測量実施にあたり、JRとの近接作業となることから、協議に必要な資料を速やかに作成し、円滑な業務の遂行にあたった。また、測量作業に当たっては、細心の注意を払い、事故等なく、外業を終えた。
豪雨災害の対応により、工期内の完成が危ぶまれたが、ドローンによる空撮データとオルソ画像を重ね、現地立会・説明においての分かりやすい資料としたことから、工程の短縮に繋がっている。

◆業務概要

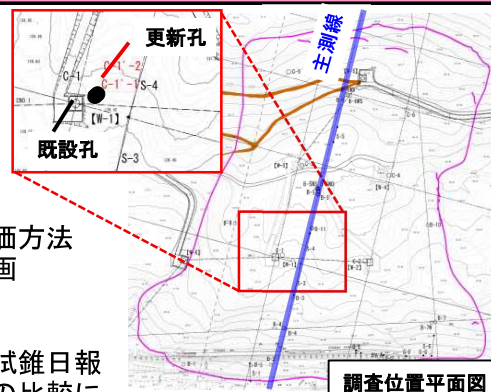
委 託 名	地すべり調査業務委託 05-SG10-Y3		
地 区 名	小湊地区		
商号又は名称	奥山ボーリング株式会社		
請 負 額	13,081,200 円	種 別	地質調査業務
代 表 者	代表取締役 奥山 信吾		
管理技術者	栗山 大助		
発注公所	北秋田地域振興局（建設部）		
主任調査員	越前谷 宏昭	調 査 員	石川 拓磨
工 期	令和6年9月20日 令和7年3月14日	完成年月日	令和7年3月14日
概 要	機械ボーリング N=2孔 土質ボーリング L=73.0m 岩盤ボーリング L=2.0m 地すべり調査 N=1式		

◆受注者の声

業務の特徴・課題

当地すべりは、幅300m・長さ320m・最大深さ40mの岩盤地すべりである。地下水排除工の全体計画が概ね完了しており、概成に向けた恒久的な対策規模を決定するために地下水排除工効果を適切に評価することが求められていた。当業務は水位観測孔の更新に伴い対策工効果の目安を得るため、以下の課題が挙げられた。

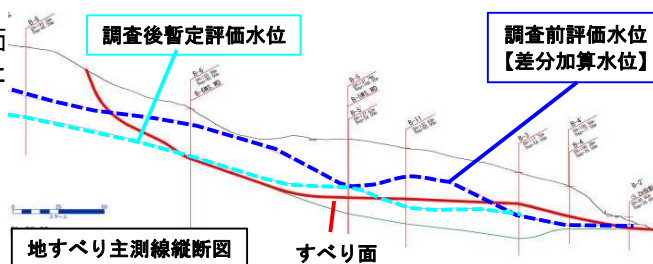
- ①対策後のすべり面に作用する間隙水圧（被圧水頭）の評価方法
- ②地下水排除工効果の試算と適切な評価に向けた調査計画



課題解決に向けて工夫した点・苦労した点

①の対応として、対策前（既設孔）と対策後（更新孔）の試錐日報解析と地下水検層（ステップ検層含む）に基づく水理地質の比較により、すべり面付近の被圧水頭が明らかに消失していることが確認できた。対策後の現状では、被圧水頭がほぼ消失し、既存のオールストレーナ孔でもすべり面に作用する間隙水圧を把握できる可能性があることを確認した。

②の対応として、対策後水位としてオールストレーナ孔の観測水位（調査後暫定評価水位）に基づいて地すべり安定度を試算した結果、大きな地下水排除工効果が期待できることが確認されたため、主測線上の水理地質を比較するための既存孔近傍における当業務と同様な調査項目・内容の計画を立案した。



◆発注公所の所見

本業務は、地すべり調査における安定した水位観測を行うため、地すべり変動等により変形・経年劣化した水位観測孔の再設置を行うとともに、試錐日報解析や地下水検層等によりボーリング箇所の水理状況を把握し、地下水排除工効果判定の基礎資料を得るものである。調査実施が困難である当該地において、調査箇所を絞る等の効率化や安全確保のための配慮を行い、降雪前に現地作業を完了させた。また、水理状況資料は過去のデータと比較するなど、創意工夫し分かりやすいものであった。

地質調査業務部門 2 第 11 回 秋田県優良業務表彰 受賞業務概要

◆業務概要

委 託 名	金沢 9 地区 ため池等整備（ため池）業務委託 06601-Y02		
地 区 名	金沢 9 地区		
商号又は名称	東邦技術株式会社		
請 負 額	9,571,100 円	種別	地質調査業務
代 表 者	代表取締役 石塚 三雄		
管理技術者	高橋 祐太郎		
発注公所	仙北地域振興局（農林部）		
主任調査員	藤本 賢	調 査 員	保坂 征耶
工 期	令和6年7月29日 令和7年3月28日	完成年月日	令和7年3月28日
概 要	地質調査 N=1式 解析業務 N=1式		

◆受注者の声

【調査対象と目的】

- 本業務の調査対象は、改修設計が行われる防災重点ため池と土取場候補地である。
- ①ため池：堤体および基礎地盤の性状、透水・強度特性の把握（過年度調査結果の活用）
- ②土取場（追加指示）：堤体材料としての適用性判断、採取可能量の推定（新規調査）

【技術的に気を付けた点】

- ①ため池：透水係数は堤体の安定計算結果に大きく影響する。過年度調査では粒度試験結果から透水性の評価を行っていたが、同手法は地盤の現状を代表しない場合がある。よって、本業務では現場透水試験（土質によりケーシング法、パッカー法の使い分け）を提案・実施し、粒度試験結果も含め信頼度が高い透水係数を設定した。
- ②土取場：過年度調査データがなかったほか、限られた予算内で地盤状況を把握する必要があった。踏査により岩盤の露頭を確認した結果、候補地一帯の表層土壌・岩相に大きな変化は認められず、2箇所のボーリング調査で候補地の状況把握は可能と判断した。

【工夫した点】

- ①ため池：過年度の調査結果の活用、設計業務委託業者との協議・調整を行うことで、業務の効率化に加え、調査目的を達成できる過不足のない調査計画を立案した。
- ②土取場：候補地は山地であることから、モーターによる運搬を想定していた。しかし、現地確認を行った結果、緩勾配かつ幅1m程度の山道を有していたため、1箇所については特装車による運搬が可能と判断・提案し、業務委託費のコスト縮減に寄与したと考える。

【現地確認による踏査結果】



◆発注公所の所見

事業は、農業用ため池の災害リスク低減を目的に対策を実施するものである。本業務は、堤体等の安定性と貯水機能を確保するため、対策に必要な地質状況を把握するものであり、的確な調査手法と設計コンサルタントとの調査情報の共有が求められる。この条件の中、本業務は土質に応じた試験方法の選定やボーリング深度毎の土質情報の共有等を行い、遅延や手戻り等なく期限内に終わっている。以上のことから本業務の取り組みは他の模範となるものである。

◆業務概要

委 託 名	排水樋管詳細設計業務委託 05-K170-Y3		
地 区 名	小阿仁川		
商号又は名称	株式会社ウヌマ地域総研		
請 負 額	15,020,500 円	種 別	詳細設計
代 表 者	代表取締役 鶴沼 順之		
管理技術者	奥村 勇貴		
発注公所	北秋田地域振興局（建設部）		
主任調査員	清水 英晶	調 査 員	石川 拓磨
工 期	令和6年6月21日 令和6年12月20日	完成年月日	令和6年12月20日
概 要	樋管詳細設計 N = 1 式 耐震性能照査 N = 1 基		

◆受注者の声

【業務の特徴と課題】

■当該地区は、背後地が水田となっており、山地からの幹線排水路と上流からの用水路が混在している。地元からは、現況用排水系統をできるだけ改変しないことを要望されたことから、既設幹線排水路流末に樋管を設置することを基本とし、用水路との立体交差や堤防天端から農地への農耕車の出入り確保等、現況の農地利用における機能確保に配慮した設計計画が必要であった。

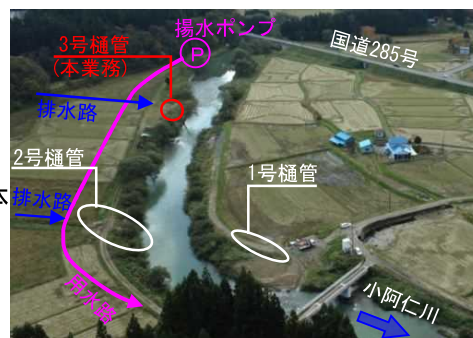
■当該地区の左岸側は、背後地に住家がある一方で、右岸側（本業務の対象）は、背後地に住家無く、山地及び水田としての土地利用状況である。同一事業内で設計思想の統一を図りつつ、左右岸の治水安全上の重要度の違いを加味しながら、コストを意識した設計計画が必要であった。

【課題解決に向けて工夫した点】

■用排水路が混在し、部分的に立体交差もすることから、複雑な構造物の配置計画において、手戻り無く協議を進めるため、現場での補足調査（水路高等）を行い、設計に反映した。また、イメージ図や3次元モデルを多用し、円滑な打合せ協議を行うことが出来た。

■ゲートに関しては、単一的な設計思想に基づき決定するのではなく、背後地状況に応じた治水安全上の重要度に応じ、重視する要素を区分した。本業務の対象である右岸側は、背後地に住家無く、山地及び水田であるため、機能性等よりも経済性を重視し、ゲートタイプを選定した。

■函体形式に関しては、RC函体（現場打ちCo）とPCa函体（プレキャストCo）とでコスト比較した。近年ではVFMの観点から比較検討を行うことが重視されているが、当該樋管は、函体延長が非常に短く、PCa函体の特長を活かせないことから、経済性を重視し、RC函体を選定した。



◆発注公所の所見

本業務は、河川改良の一環として、洪水時に河川の水位が上昇した場合に、堤内地側に逆流しないように設ける排水樋管の詳細設計を行ったものである。

地元要望を踏まえ、将来の維持管理が容易となるよう水路計画や設計を行った。また、3次元モデルを活用して現地状況と計画構造物との取り扱い等の把握を行い、手戻り等も無く、業務を遂行することができた。3次元モデルは事業説明や広報等の資料に活用できるものであるなど、事業の円滑な推進に貢献している。

土木設計業務部門 2 第 1 1 回 秋田県優良業務表彰 受賞業務概要

◆業務概要

委 託 名	砂防堰堤詳細設計業務委託 05-LA23-Y2		
地 区 名	寺ノ沢 5		
商号又は名称	柴田工事調査株式会社		
請 負 額	14,523,300 円	種 別	詳細設計
代 表 者	代表取締役 五十嵐 誠		
管理技術者	中島 裕		
発注公所	北秋田地域振興局（建設部）		
主任調査員	清水 英晶	調 査 員	石川 拓磨
工 期	令和6年5月31日 令和7年3月28日	完成年月日	令和7年3月27日
概 要	砂防堰堤詳細設計 N = 1 式 砂防堰堤配置設計 N = 1 式 流木対策工詳細設計 N = 1 式		

◆受注者の声

【業務の特徴】

当該溪流（寺ノ沢5）の溪床には多くの不安定土砂が堆積しており、大雨が降ると土砂災害の発生する危険性が非常に高く、保全対象に要配慮者利用施設、人家64戸が存在することから早急に対策を講じる必要があった。

【技術的に気を付けた点】

土質条件や地形形状を踏まえ、現地に最適な砂防堰堤、管理用道路を計画することに留意した。

【苦労した点】

軟弱地盤に対し砂防堰堤の種類と地盤改良工法の最適な組合せを選定することが課題であった。決定にあたって発注者と協議を繰り返し、現地に適した経済性で優位な工法を選定することができた。

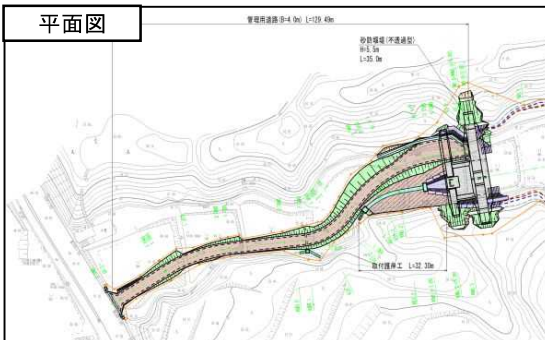
【工夫した点】

①過年度の設計条件について、現地状況を踏まえて再度精査して決定し、測量・地質調査結果を踏まえて堰堤構造を検討した。
管理用道路は地元の要望及び周辺環境への影響、効率的な維持管理を考慮してルートを決めた。
②構造協議資料の作成にあたり、発注者側の要望を踏まえ、図示の仕方や参考資料の作成を工夫し、説明しやすい資料作りに努めた。

保全対象



平面図



◆発注公所の所見

本業務は、土石流対策を目的とした砂防堰堤の配置設計及び詳細設計を行ったものである。設計を実施する中、関係者から出た多岐にわたる意見等を的確に取り込み、調和のとれた提案がなされた。また、作成された資料は的確で分かりやすく、手戻り等も無く、関係者協議の円滑な推進に貢献した。今後の検討事項についても具体的に纏められており、事業の円滑な遂行に寄与している。

土木設計業務部門 3 第 11 回 秋田県優良業務表彰 受賞業務概要

◆業務概要

委 託 名	護岸予備詳細設計業務委託 05-KA14-YB		
地 区 名	太平川		
商号又は名称	セントラルコンサルタント株式会社 東北支社 秋田営業所		
請 負 額	139,227,000 円	種 別	詳細設計
代 表 者	所長 佐藤 大起		
管理技術者	高橋 晃		
発注公所	秋田地域振興局（建設部）		
主任調査員	加藤 忍	調 査 員	保坂 俊輔
工 期	令和5年10月19日 令和7年3月21日	完成年月日	令和7年3月21日
概 要	太平川 河道計画検討 N=1式 護岸予備設計 N=1式 護岸詳細設計 N=1式		

◆受注者の声

■業務の特徴と着眼点

本業務は令和5年7月15日に発生した大雨により大規模な浸水被害の発生要因となった一級河川太平川について、『河川激甚災害特別緊急事業（以下、激特事業）』に採択された旭川合流部～桜大橋（延長4.6km）を対象に、河道計画検討及び護岸予備・詳細設計を実施したものである。

本業務は、激特事業の特性等を踏まえ、以下に着眼して業務を遂行した。

- ①設計～施工完了までを6年間（R5～R10）で実施する必要がある、実現可能な計画を立案。
- ②両岸に民家が連担する市街地を流下する河川で、川幅拡幅を行わずに河積の確保をする。
- ③河岸肩に植生する桜並木は、桜まつりなど地域の憩いの場を形成しているため極力存置。

■着眼点に対する技術的な工夫点、苦労した点

①施工期間への対応

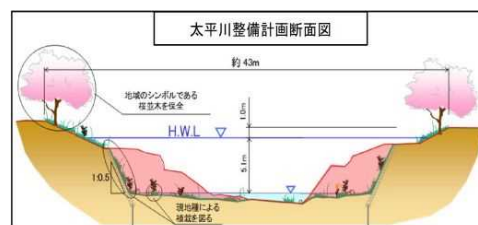
河川整備計画は両岸ブロック積護岸の単断面河道の計画であったが、半川締切による左右岸交互施工では事業期間内での施工完了は困難なため、仮締切工兼用の鋼矢板護岸による両岸同時施工を採用した。

②河積確保の方法

計画河床高から4mを限度高にブロック積護岸を配置する計画であったが、鋼矢板護岸を平水位高とすることで護岸天端高を計画高水位合わせとし、護岸法線をセットバックすることで河積を確保した。

③桜並木の保存

河岸肩に多くの桜が植生し、護岸工事の支障となるため全撤去も考慮したが、樹木医の診断・助言を提案し、掘削による桜の根への影響を適切に評価することで、半数以上の桜の存置を可能にした。



◆発注公所の所見

本業務は、令和5年7月豪雨により大規模な浸水被害が発生した太平川における激特事業の事業採択及び事業実施のための計画・設計業務である。業務期間内に激特工事の発注対応が必要であったが、内容修正などの対応を速やかに行い、計画通りの発注に貢献した。また、沿川の住宅・道路橋・鉄道橋など厳しい設計条件の中であったが、高度な技術力を発揮し、約17ヶ月の業務期間で4.6kmの設計を完成させ、事業期間内に工事完成が可能な成果となっている。

土木設計業務部門 4 第 11 回 秋田県優良業務表彰 受賞業務概要

◆業務概要

委 託 名	洪水量評価・洪水痕跡調査等業務委託 05-K246-Y3		
地 区 名	馬場目川他		
商号又は名称	パシフィックコンサルタンツ株式会社 秋田事務所		
請 負 額	63,833,000 円	種 別	予備設計
代 表 者	所長 石井 勉		
管理技術者	加藤 譲		
発注公所	秋田地域振興局（建設部）		
主任調査員	小塚 貴紀	調 査 員	山谷 拓也
工 期	令和5年8月10日 令和7年3月25日	完成年月日	令和7年3月25日
概 要	洪水量評価 N=1式、河道計画検討 N=1式 河川整備計画変更資料作成 N=1式、河川環境調査 N=1式 洪水痕跡調査 N=1式		

◆受注者の声

1. 業務の特徴 本業務は、令和5年7月14日～16日の梅雨前線豪雨により浸水被害が発生した馬場目川、富津内川、内川川を対象として、出水の再現計算、河川整備目標の設定、河道計画の検討、費用対効果の検討、及び洪水痕跡調査、河川環境調査等を行ったものである。また、これらの検討結果を踏まえて河川整備計画変更に向けた資料作成を行ったものである。 2. 業務実施に当たり苦労した点 本業務は、業務着手～令和5年度末までの8か月間で、①すべての検討について目途を立てること、②浸水被害を踏まえた河川整備方針について関係機関の了解を得るとともに、③学識者等から構成される馬場目川圏域河川整備計画検討委員会に報告する必要があり非常にタイトなスケジュールで実施せざるを得なかったが、これまで弊社が実施してきた河道計画等の知見を活用して遅延なく対応することができた。 3. 業務実施上の留意点・工夫点 ①今回の洪水では、一連で堤防高を超える高さの水位まで上昇したため、氾濫による流量低減を表現できる氾濫計算を実施することで洪水実態に即した再現計算を実施した。 ②河道計画検討では、一部区間の氾濫を許容する計画としたため、事業効果の確認は不等流計算だけでなく氾濫計算も活用して実施した。 ③河川環境調査のうち魚類調査では、採捕調査に加え環境DNA調査の実施を提案し、馬場目川流域の魚類相を把握した。また、データの不足していた鳥類や、馬場目川上下流の植生図作成調査を追加提案し、これらを河川整備計画変更資料の根拠として整理した。 ④今回の河道計画は、関係機関との協議を経て紆余曲折の中で決定された。そこで、今回の河道計画がどのような検討経緯・検討過程を経て決定されたのか把握できる資料を作成した。

◆発注公所の所見

・本業務は、非常にタイトな工程の中、洪水量評価を含む河道計画検討、洪水痕跡調査、河川環境調査、河川整備計画変更資料作成など、多岐にわたる業務を遂行する必要があったが、迅速かつ適切に対応し、令和6年8月の河川整備計画の変更同意を可能とした。 ・人家連担地も存在し、事業費の増大も懸念されたが、複数の河道計画案を立案するなど、十分な技術力を発揮したことで、費用を抑えた効果的な計画を策定したことは、高く評価できる。

土木設計業務部門 5 第 1 1 回 秋田県優良業務表彰 受賞業務概要

◆業務概要

委 託 名	蒲田地区 災害関連緊急治山業務委託 RE1124B101		
地 区 名	蒲田地区		
商号又は名称	一般社団法人秋田県林業コンサルタント		
請 負 額	12,129,700 円	種 別	詳細設計
代 表 者	理事長 清水 譲		
管理技術者	前川 峰志		
発注公所	由利地域振興局（農林部）		
主任調査員	佐藤 政樹	調 査 員	金丸 孔明
工 期	令和7年1月24日 令和7年3月24日	完成年月日	令和7年3月24日
概 要	測量業務 N = 1 式 設計業務 N = 1 式		

◆受注者の声

【業務の特徴】

本業務の対象箇所は、日本海東北自動車道「仁賀保IC」のやや北側に位置する溪流「阿部堂川」と、その支流で発生した山腹崩壊地1箇所である。支流で発生した山腹崩壊は、にかほ市で日降水量の観測史上1位を記録した令和6年7月25日の大雨を誘因とした、崩壊深が7～8mに達する深層崩壊であった。この深層崩壊による崩落土塊が、本流である阿部堂川沿いにあるスギ立木や周辺の土塊を巻き込んで流下し、河道を閉塞させたほか、大量の不安定土砂となって溪流内に堆積した。このような状況からの迅速な復旧を図るべく、詳細設計を実施した。

【業務実施上の留意点や工夫点】

①現地での踏査・測量にあたって

事前の小型ドローンを使用した撮影により、山腹崩壊地の面積が大きく、溪流沿いにも大量の土砂やスギが堆積していることが判明したため、現地に立ち入った踏査・測量には非常な労力を要すると考えられた。そこで、あらかじめドローンレーザ計測を実施することによって、災害の全体像や詳細な地形などを把握し、踏査にあたって重要なポイントや測量にかかる人員の見込みなどを把握し、業務が効率的に進むよう工夫した。

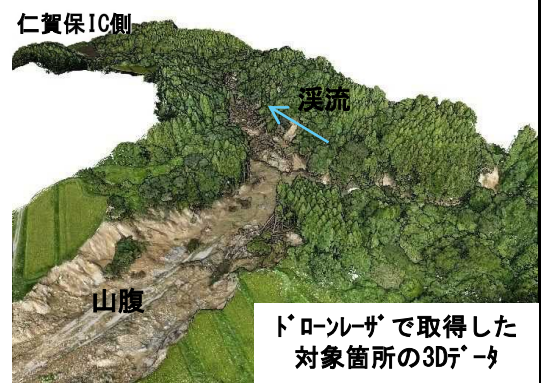
②対策工の立案にあたって

●山腹崩壊地

斜面上の風化岩に亀裂が多く今後拡大崩壊の危険がある点や、露岩した斜面の表面に常水が確認された点に留意し、のり砕工や水路工などを計画した。

●溪流「阿部堂川」

溪流沿いの各所に小崩壊や湧水が確認され、新設に適したダムサイトがないと判断された。この点に留意し、溪流内の既設ダム工の嵩上げを計画した。



◆発注公所の所見

本業務は、令和6年7月の豪雨により発生した大規模な山腹崩壊地、及び山腹崩壊に伴う流出土砂の堆積等により荒廃した溪流の復旧対策を立案する業務である。事業規模が大きく、また地内には多量の土砂が堆積している等作業には困難を伴う現場であったが、ドローンを活用した事前調査の実施や独自に実施したレーザ計測結果を取り入れるなど、再度災害の防止に向け工事の施工方法にも十分配慮された成果品となっており、その内容は優れたものであった。

調査点検等業務部門 1 第 1 1 回 秋田県優良業務表彰 受賞業務概要

◆業務概要

委 託 名	道路メンテナンス事業（効果促進） 橋梁点検業務委託 05-FI11-Y1		
地 区 名	国道 1 0 3 号 ほか		
商号又は名称	株式会社ウヌマ地域総研		
請 負 額	15,139,300 円	種別	単純調査等業務
代 表 者	代表取締役 鶴沼 順之		
管理技術者	小山 甫		
発注公所	鹿角地域振興局（建設部）		
主任調査員	大森 信博	調 査 員	成田 圭佑
工 期	令和6年6月28日 令和7年2月21日	完成年月日	令和7年2月21日
概 要	橋梁点検 N = 4 3 橋		

◆受注者の声

1. 業務の特徴

道路法に定められる3巡目点検として、43橋を対象に定期点検を行ったものである。点検方法は、橋梁点検車使用：18橋、リフト車使用：2橋、徒歩・ハシゴ併用：6橋、特定の溝橋：17橋であり、対象橋梁には十和田湖周辺の国立公園内に存在する橋梁も多く、現地状況に応じて現地改変を行わない点検手法の提案が必要とされた。

調査職員と事前協議を行い、対象の中から損傷度や補修設計の発注に備え、優先的に診断・現地確認を行うべき橋梁を抽出し、調査職員立会のもと、重点的な現地確認を実施した。

その結果、現地点検において橋梁本体構造上に影響を及ぼす損傷が確認された橋梁については、別途、詳細調査を実施したうえで、迅速に損傷報告を行い、更に緊急に実施すべき応急対策方法を提案するなど、受発注者間での密な連携を通じて、第三者被害の未然防止につなげることを可能とした。

2. 業務において工夫した点

【支援技術の活用、近接目視の代替、環境保護、効率性・安全性向上】

国立公園内の橋梁点検車使用対象橋梁において、樹木等支障物により近接目視が出来ない箇所に対する「全方位センサー搭載型ドローンを活用した橋梁点検」の導入・実施。

【迅速な連絡体制の構築】現地にて構造へ影響のある損傷が確認された等、緊急報告が発生した場合に備え、遠隔臨場システムやノートPCを携帯し、迅速な連絡体制を構築した。



損傷報告
(定期点検後に別途詳細調査実施)

◆発注公所の所見

本業務は、橋梁の定期点検（法定点検）として鹿角管内43橋を対象として行っている。点検対象が国有林、十和田湖周辺に位置する橋梁が多い状況の中、関係機関との調整や諸手続きを適正に行い業務を遂行している。また、現地調査で事前に支障木等の障害物を把握し、橋梁点検車、徒歩・はしごで近接目視が困難な橋梁について、「全方位センサー搭載型ドローンを活用した点検」を提案し安全かつ効率的に業務を行ったことが高く評価できる。

用地調査等業務部門 1 第 1 1 回 秋田県優良業務表彰 受賞業務概要

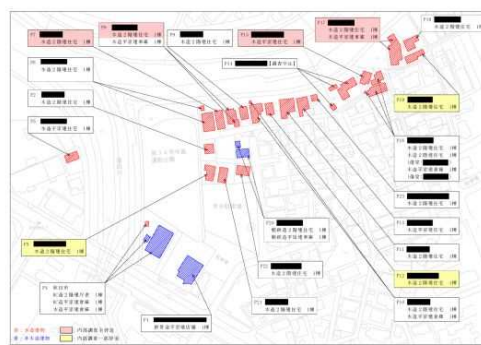
◆業務概要

委 託 名	地盤変動影響事前調査等業務委託 05-KT10-YP		
地 区 名	太平川		
商号又は名称	柴田工事調査株式会社		
請 負 額	25,000,800 円	種 別	用地調査業務及び算定業務
代 表 者	代表取締役 五十嵐 誠		
管理技術者	高橋 智哉		
発注公所	秋田地域振興局（建設部）		
主任調査員	武村 信之	調 査 員	山田 恵一
工 期	令和6年3月27日 令和6年9月30日	完成年月日	令和6年9月30日
概 要	木造建物A調査（事前） N=20棟 木造建物C調査（事前） N=6棟 非木造建物イ調査（事前） N=3棟 非木造建物ハ調査（事前） N=2棟、 工作物調査（事前） N=22箇所		

◆受注者の声

【業務の目的・特徴】

本業務は令和5年7月の集中豪雨により発生した河川激甚災害に伴う特別緊急対策事業である太平川河川改修工事の工事区域内における建物等の事前調査を行ったものである。調査対象範囲は秋田市牛島東地区であり、河川改修事業に伴う工事車両通行による振動等の影響及び河川改修事業本體工事中に発生する振動等の影響を考慮した工事施工箇所付近の住宅及び車庫等が主な対象となっている。具体的な対象物件には住宅・車庫・物置及び秋田市消防施設等が存しており、各建物内部外部及び外構部分等で亀裂や隙間等の損傷調査を実施した。また、井戸については井戸の有無を確認し報告を行っている。



調査対象位置図

【配慮・工夫した事項】

- ・調査対象地区には、工事車両通行箇所と工事中使用予定の資材ヤードが隣接する箇所であるため、近接する対象者には挨拶時にその旨も丁寧に説明を行うことで対象者の工事への不安払拭に努めた。
- ・対象者が多数のため調査日程を決定する際は、対象者への負担のない日程調整を考慮し調整することでスムーズな調査を行うことができ、トラブル無く全調査を早期に完了させた。
- ・建物内に調査員が入る場合には言動や行動に十分気をつけ調査を行い、対象者からの本體工事に対する意見・要望を聞き、その内容を資料として作成し発注者に提出している。
- ・全体調査対象範囲が広大で同時期に調査が集中しているため、打合せ協議の内容を事前に発注者に確認、その後協議を実施し、打合せの円滑なやり取りを行うことを実施した。
- ・調査対象地に軟弱地盤があったため、軟弱地盤道路現況写真と調査対象者からの聞き取り事項、調査時に確認した注意箇所をまとめた「工事施工時要注意箇所」を作成し報告を行った。

◆発注公所の所見

本業務では、建物等の調査過程において地元住民から「当該地区は地盤が弱い」との声が多数寄せられたことを受け、工事にあたり特に注意が必要となる箇所を取りまとめた「工事施工時要注意箇所」を作成し、成果品とともに報告されている。その内容は、調査対象物件の地盤強度の聞き取り結果のほか、調査対象地区内の道路の沈下状況等も含まれるなど丁寧に作成されており、工事に向け大いに参考となるものであった。

秋田県優良業務表彰 選考委員会名簿

選考委員長	副知事	神部 秀行
選考委員	総務部長	伊藤 政仁
〃	農林水産部長	藤村 幸司朗
〃	建設部長	小野 潔
〃	出納局長	小熊 新也

秋田県優良業務表彰 幹事会名簿

幹事長	建設部建設産業振興統括監	近藤 雅
幹事	農地整備課長	小野寺 平崇
〃	森林環境保全課長	小野 圭
〃	建設政策課長	高橋 雅昭
〃	技術管理課長	出口 和彦

秋田県優良業務表彰要綱

（表彰の目的）

第1条 県が発注した業務委託のうち、優秀な成績で業務を完了したものを表彰することにより、調査及び設計を行う技術者の育成・確保を図り、もって社会基盤の品質を確保することを目的とする。

（表彰の対象）

第2条 対象は、表彰実施年度の前年度に完了した業務委託とし、秋田県委託業務成績評定に基づき評価されたものとする。

（表彰の名称）

第3条 名称は、「秋田県優良業務表彰」とする。

（表彰の基準）

第4条 次のすべてを満足すること。

- （1）当該業務の成績評定が優秀であること。
- （2）当該業務において事故等による減点がないこと。
- （3）当該企業における各業務の成績が良好であること。
- （4）当該企業において各業務の成果品について追完又は損害賠償が実施されてないこと。
- （5）当該企業において労働災害がないこと。
- （6）他の模範となるものと認められる業務であること。

（選考委員会）

第5条 表彰すべき業務を選定するため選考委員会を置き、その構成は別表第1のとおりとする。

2 選考委員会は、次項の幹事会の調査報告に基づいて協議し、表彰すべき業務を決定するものとする。

3 選考委員会に幹事会を置き、その構成は別表第2のとおりとする。

4 幹事会は、事務局が作成した優良業務表彰候補者名簿に基づいて、部門別に当該業務の調査を行い、その結果を選考委員会に報告するものとする。

（表彰）

第6条 被表彰者は、受託企業の代表者（共同企業体の場合にあっては、構成員のそれぞれの代表者）及びその業務を担当した管理技術者とする。

（事務局）

第7条 事務局は、技術管理課に置く。

（補足）

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定めるものとする。

附則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

平成28年6月1日一部改訂

平成29年3月9日一部改正

平成30年3月16日一部改正

令和元年5月20日一部改正

令和5年3月27日一部改正

※上記要綱内の「別表第1」及び「別表第2」の構成員は、P50の名簿参照のこと

